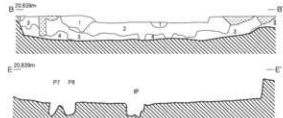
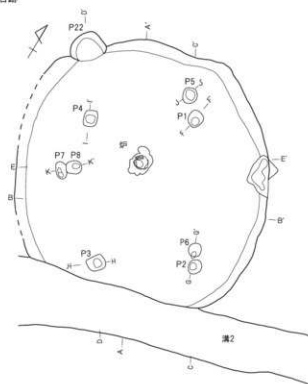
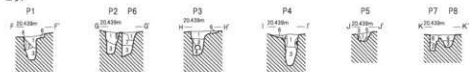


5号住居跡



ピット

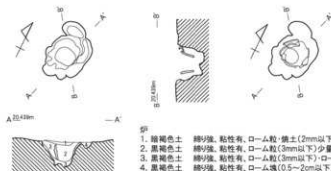


住居内ピット

1. 暗褐色土 粘り強、粘性やや中弱、ローム粒(3mm以下)やや多量、ローム塊(0.5~1cm)少量
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、暗褐色土塊(1cm以下)やや多量、P2-3は炭化物(2mm以下)少量
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、原境したようなローム塊(2cm以下)多量
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、床面、ロームの厚みに堆積する土、粘り強く細のはっきりしないローム塊(1.5cm以下)多量
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒褐色土ローム土が粘り強く一体化して堆積する P2に近
8. 黒褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土がやや中置状を呈してベースとなり、ローム粒(2mm以下)やや多量、ローム塊(1cm以下)少量
9. 黒褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土がやや中置状を呈してベースとなり、ローム塊(2~3cm)・ローム粒(2mm以下)少量

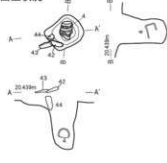


炉

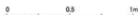


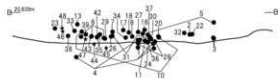
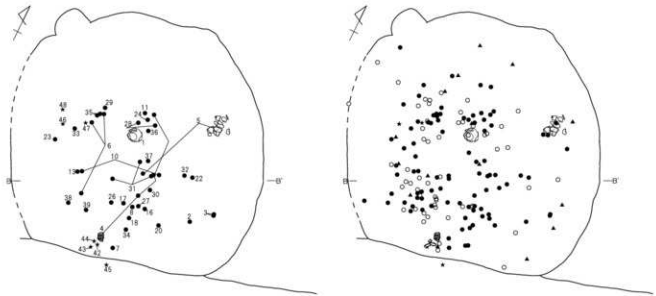
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・塊土(2mm以下)わずか、ピット1面に依る
2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量
3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・ローム塊(1~1.5cm以下)少量
4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊(0.5~2cm以下)多量、色調は3層より明い

P3遺物出土状況

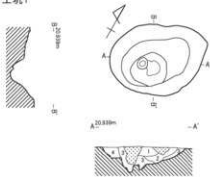


- ピット3の土層内の土は粘り強(粘性やや中弱、ローム粒(3mm以下)が主体、黒褐色土少量、3-4層は真なる土質





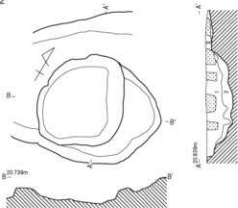
土坑1



土坑1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずか
下下に暗褐色土の硬い塊多量
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、粒形大ローム粒(2~5mm)少量
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、シト状のローム塊(2cm以下)多量、炭状を呈する
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2層に似た土質、ローム粒(3mm以下)少量

土坑2



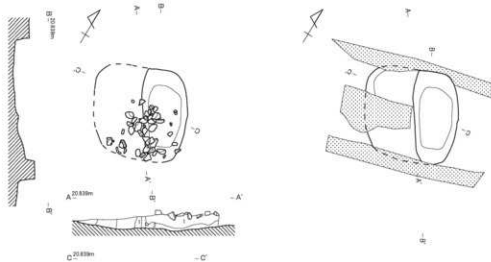
土坑2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊(5~15mm)少量、
南層はローム分多く色調明い
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ソフローム塊(5cm以下)
多量、ハーフローム塊(1.5cm次)少量
ベースの土は、灰色塊状を含有物は少なめ
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1・2層に比し色調明い、ローム粒(3mm以下)少量



第108図 江川南遺跡5号住居跡遺物出土状況・江川南遺跡第23地点土坑(1/60)

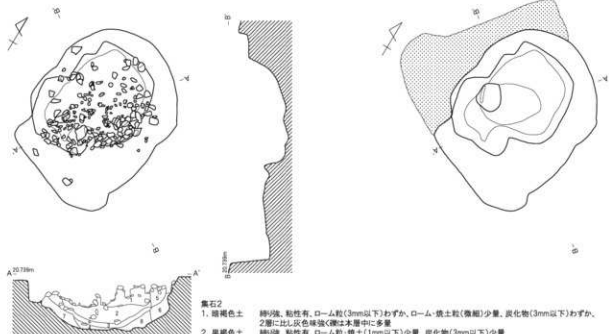
集石1



集石1

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずか
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊(1cm以下)少量、志紀取は明い
ローム粒・炭化物・焼土(2mm以下・粒径大)少量
3. 包含層暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、炭化物・焼土(2mm以下)少量

集石2



集石2

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)わずか、ローム・焼土(微細)少量、炭化物(3mm以下)わずか、2層に比べ灰色味が強く粘土多量中に多量
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・焼土(1mm以下)少量、炭化物(3mm以下)少量(中央に動植物体と思われるローム粒の集中部分がある)
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)を2層より多く含む色調明るめ、炭化物(2mm以下)少量
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、上層に比べ粘り強く色調明るなる、ローム粒(2mm以下)・ソフトローム塊(1cm以下)少量
5. 暗褐色土 粘り有、ローム粒・炭化物・焼土(1mm以下)少量、1・2層に比べ灰色味が強く、粘り強め
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)やや多量、ローム塊(1cm以下)少量、炭化物(1mm以下)少量が目立つ
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ベースの土は6層に似る、ローム粒(3mm以下)やや多量、ローム塊(1.5cm以下)多量、炭化物(1mm以下)少量
8. 黄褐色土 粘り強、粘性有、主体、ソフトロームローム塊(3cm以下)少量、炭化物(1mm以下)わずか、上層のシミに黄褐色土のしみが見られる

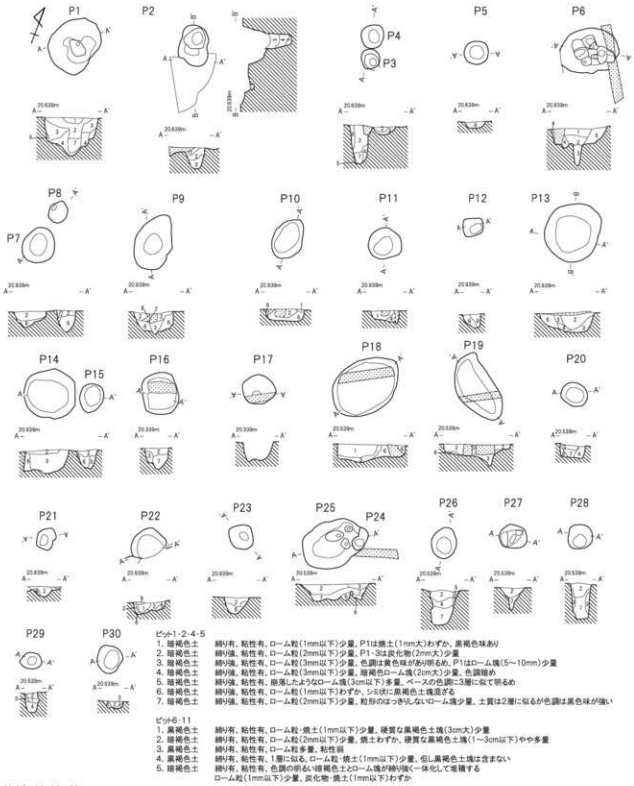
0 0.5 1m

第109図 江川南遺跡第23地点集石(1/60)

第58表 江川南遺跡第23地点集石一覧表

(単位:cm・g)

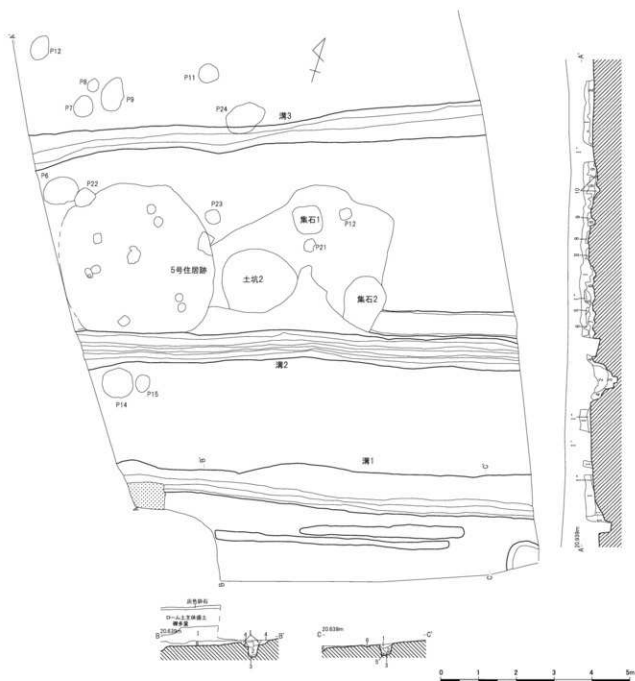
No.	平面形態	土坑確認面	底面	深さ	縦横四	比率				定形率(%)				備考		
						総数	重量	個数	重量	個数比	重量比	個数	重量		個数比	重量比
1	圓九方形	78 × 74	50 × 26	10	65 × 50	49	3665	4	533	8.2%	14.6%	5	900	10.2%	24.6%	土部片1点
2	楕円形	135 × 105	50 × 33	44	115 × 80	540	18300	60	1980	11.1%	10.7%	25	1450	4.6%	7.8%	土部片1点



ピット7-10、12-30

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色味があり、ローム粒(1mm以下)少量、P18-19はローム粒・炭化物(2mm以下)、P20は(1~2mm)
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊少量、炭化物・焼土(2mm以下)わずく
- 3. 暗褐色土 P1は炭化物(2mm以下)・焼土(1mm以下)やや多量、P14は中や小のローム、炭化物・焼土なし
- 4. 暗褐色土 P2はローム粒(2mm以下)中や多量、焼土(1~3mm)少量、炭化物(1~2mm)少量
- 5. 暗褐色土 P2はローム塊(5mm大)少量、炭化物(2mm以下)少量目立つ、P30は炭化物(1mm以下)わずく
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、黄色味があり、色調暗め、ローム粒(3mm以下)少量、締りはやや弱、ローム塊目立つ
- 7. 暗褐色土 P1はローム塊(0.5~1cm)中や多量、P15はローム塊(1cm以下)
- 8. 暗褐色土 P1はローム塊(1cm以下)少量、P20は中や小のローム塊中、P24は締り強、炭化物(1mm以下)わずく
- 9. 暗褐色土 P2は色調明るいローム塊(5mm大)少量、P29のローム塊はソフ質、P30は色調暗め、締り・粘性弱
- 10. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗め、ローム粒(3mm以下)少量、暗褐色ローム塊(2cm大)少量
- 11. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗め、暗褐色土とローム塊が締り強く一体化して堆積する、ローム粒(1mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずく、P1は炭化物(2mm以下)わずく
- 12. 暗褐色土 締り強、粘性有、土質は2層に似るが黄色味強い、ローム粒(2mm以下)・粒形がはっきりしないローム塊少量、土質は2層に似るが色調は黒褐色が強い
- 13. 暗褐色土 締り強、粘性有、土質は2層に似るが黄色味強い、ローム粒(2mm以下)・粒形がはっきりしないローム塊少量、土質は2層に似るが色調は黒褐色が強い
- 14. 暗褐色土 締り有、粘性有、1層に似る、ローム粒・焼土(1mm以下)少量、但し黒褐色土は含まない
- 15. 暗褐色土 締り有、粘性有、色調の暗い暗褐色土とローム塊が締り強く一体化して堆積する
- 16. 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずく

第110図 江川南遺跡第23地点ピット (1/60)



溝 A

1. 暗褐色土 練り強、粘性有、ローム粒、ローム塊(20cm以下)やや多量、炭化物(5mm大)わずか。
 下部は黒褐色土とローム塊多量 裏土(耕作土)
 1' 暗褐色土 練り強、礫多量、ピニール含む 裏土(カクラン、礫土)
 1'' 暗褐色土 練り強、ローム塊(20cm以下)やや多量 裏土
 Ⅱ 暗褐色土 練り有、粘性有、地山の牽移層、ローム粒(20mm以下)少量
 Ⅲ 黄褐色土 練り有、粘性有、地山のソフトローム、ハードローム塊が混ざる 立川ローム層
 溝1、溝1の6層に同じ 暗褐色土、シロ状に黒褐色土を含み粗交とローム土、ローム粒(5mm以下)やや多量
 溝2 2. 黒褐色土 練り有、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(0.5~2.5cm)少~やや多量
 3. 黄褐色土 練り有、粘性弱、ローム塊(4cm以下)多量
 4. ソフトローム+黒褐色土 練り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)多量、下半はソフトロームもしこはハードローム塊主体
 5号住居 5. 5号住居1層と同じ
 6. 5号住居2層と同じ
 7. 5号住居3層と同じ

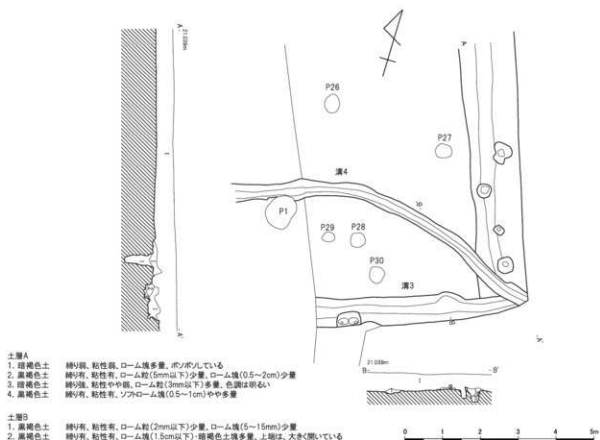
ピットB

6. 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量、礫土(1mm以下)わずか
 溝3 9. 黒褐色土 練り有、粘性有、ローム粒(20mm以下)少量、ローム塊(0.5~1.5cm)少量
 10. 黒褐色土 練り有、粘性有、ソフトローム塊(15mm以下)暗褐色土塊多量、土層は、大きく開いている
 溝3は深く、上は大きく開いている

溝B-C

1. 暗褐色土 練り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)多量、炭化物(5mm大)わずか、しみ状に黒褐色土やや多量
 2. 暗褐色土 練りやや弱、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(1cm大)少量、ソフトローム多量
 3. 暗褐色土 練りやや弱、粘性やや弱、ソフトローム土、ローム粒(5mm以下)ローム塊(1cm大)やや多量、2層に比べ色調暗い点で別
 4. 暗褐色土 練り有、粘性やや弱、ソフトローム主体、ローム粒(5mm以下)多量
 5. 暗褐色土 練り有、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)ローム塊(0.5~30cm)やや多量
 6. 暗褐色土 練り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(30cm以下)多量、下面の起伏著しい、概ねともCは耕作層の裏層と考えられる。 溝1下の増層

第111図 江川南遺跡第23地点溝1~3 (1/100)



第112図 江川南遺跡第23地点溝3・4 (1/100)

(6) 5号住居跡出土遺物(第113、114図1~48)

1は炉内埋設土器であり、口縁から胴中部までを遺存し、口縁部は80%を欠失し推定口径28cm・遺存部高は19cmである。口縁部文様帯は、隆帯による下向半円形と三角区画文で、隆帯裾と区画内に押引文を入れるが三角押文に近いものもある。頸部素文帯下の胴上部文様帯は横帯区画で、平行四辺形と三角形の区画内に2列の三角押文を巡らす。胎土に白色軟質物質を含み、整形・施文は入念で焼成は良好であり、赤褐色を呈する。新道式新相である。

2は小深鉢の口縁から胴上部までの3分の1を遺存する。幅広い口縁部文様帯は半円形と長い山形区画文を基調とし、区画内は隆帯沿いに2列の押引文を入れる。区画接合部には、突出した抽象図形をつくる。胴上部文様帯は遺存部が少ないが押引文がある。胎土には角閃石、石英粉末、白色軟質物質を含み、暗褐色を呈する。新道式新相といえる。

3は口縁端部を欠失し胴部までの30%を遺存する小深鉢である。口縁部文様帯は三角区画文を基本とし、

素文帯と文様帯の区画は幅広押引文である。胴上部文様帯は横帯文で三角・逆三角の区画内側に三角押文を配する。新道式新相である。

4は口縁部を欠く小深鉢で、胴中部文様帯は、三角形・逆三角形区画を連続させるが、区画内には隆帯裾沿いに幅広押引文を加える。胴下部文様帯は6個の楕円形区画文を巡らす。区画隆帯内側に三角押文を入れる。文様帯間に細かいRL縄文を充填する。焼成良好、赤褐色を呈する。勝坂第Ⅱ様式(藤内式古相)。

5は口縁から胴中部までの4割を残す大深鉢であるが山形無文口縁で、口縁部を器形的には区分しない。波状口縁下の口縁部文様帯にあたる部分は細かいRL縄文のみで口縁との境には波文を入れる。胴上部文様帯は横位の楕円形区画であり、区画内は幅広押引文と波状文である。勝坂第Ⅱ様式である。

6は浅鉢の底部で、胎土に白色粗砂粒・白色軟質物質と若干の金雲母を含む。阿玉台Ⅱ式。

7~14は胎土に金雲母を含み、7は高い三角隆帯を垂下させ、8と9は三角押文を基調とし、10~12は複

列の三角押文をもち、13は波状文、14は貼付垂下に特色がある。いずれも阿玉台Ⅱ式である。

15は扇形把手片でラフな押引文をもつ。16は口縁に押引文列をもつ浅鉢で、17は押引による波状文に特徴があり、18は胴下段の楕円形横帯区画で隆帯裾に連続三角押文を入れる。15～18は新道式新相

19～24は隆帯裾に幅広押引文を入れる類で、25は筒形深鉢片。26は胴中部の貼付垂下文下部である。19～26は壱内式と言える。27は口縁に刻目文を入れる浅鉢口縁部片、28は粗製深鉢の口縁部。29～32の深鉢底部のうち、29には押引文があり、30は底近くの隆帯上に刻目を入れる。31の無文深鉢底には編物痕がある。33と34は幅広押引文と波状文のセットで34の隆帯上にはC字形の刻目をもつ。35～37は筒形深鉢の胴部文様帯で、縦長区画を基本とし刺突を加える。33～37は勝坂Ⅱ式壱内式段階といえる。38は隆帯部分を欠失する。39は深鉢底部で、胎土に金雲母を含み、2次被熱によるハジケ現象が内面に著しい。40と41は側面調整の著しい土製平板で、40は地文縄文、41は波状沈線をもつ。

(7) 集石・土坑・ピット出土土器 (第114図)

1は集石出土で隆帯裾に幅広押引文をもち、もろく灰褐色呈し蒸されたことを示す。2と3は土坑1出土で、2は三角押文列が3は複列の短い角押文をもち、勝坂Ⅳ様式。壱内式。4はピット12出土の筒形深鉢片。5と6はピット13出土の無文底部である。

(8) 遺構外の土器

1は押引文のほかに三角押文を押しいた波形をもつ。

2は口縁下に三角押引文と半月状沈線。3は幅広押引文と鋭い三角押文のセット。4と5は堅い焼成で、6～8は幅広押引文。9は小型の筒形深鉢である。10～12は隆帯上の刻目文をもつ。13は隆帯上にC字形爪形文、14は蓮華文をもつ。15・16は隆帯による区画内に沈線列をもつ。17は無文の浅鉢、18は爪形文の小浅鉢。20は三角押文による波状文がある。18～21は胎土に金雲母を含み、阿玉台Ⅱ式新相。

1や2のような新道式新相から壱内式新相がある。

3～8は壱内Ⅰ式、10～16は壱内Ⅱ式である。22は脚状土製品で胎土に石英粉末と金雲母を含む。時期不明。遺構外の細片は割愛したが、勝坂末期や加曾利E式の破片はない。

(9) 江川南遺跡第1号住居跡 (参考)

1977年に町史 (旧大井町) 編さん事業の一環として発掘調査された住居跡である。

【位置】調査区の西、福岡川の30m南に位置する。

【形状】全面を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は主軸方位の南北方向で5.4m、東西5.3m。確認面から床面の深さは35cm、壁は若干緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

【炉】炉は深鉢を転用した埋炭炉。径50×40cm・深さ25cmのピットに口縁部と底部を打ち欠いた土器を埋設する。炉体土器は沼沢式。

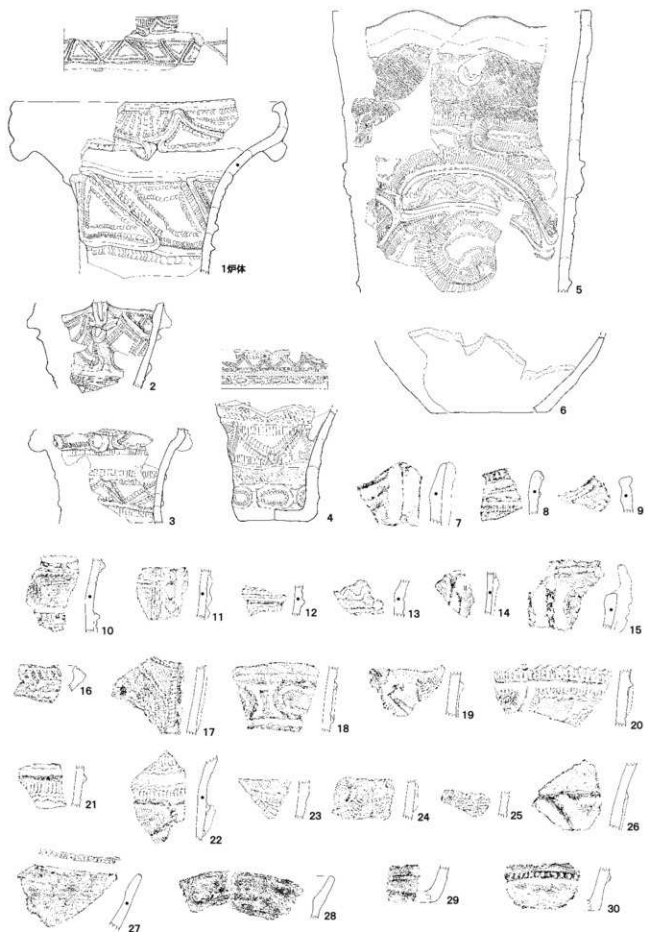
【ピット】14基検出し4基が主柱穴と思われる。

【時期】炉体土器から勝坂Ⅰ期。

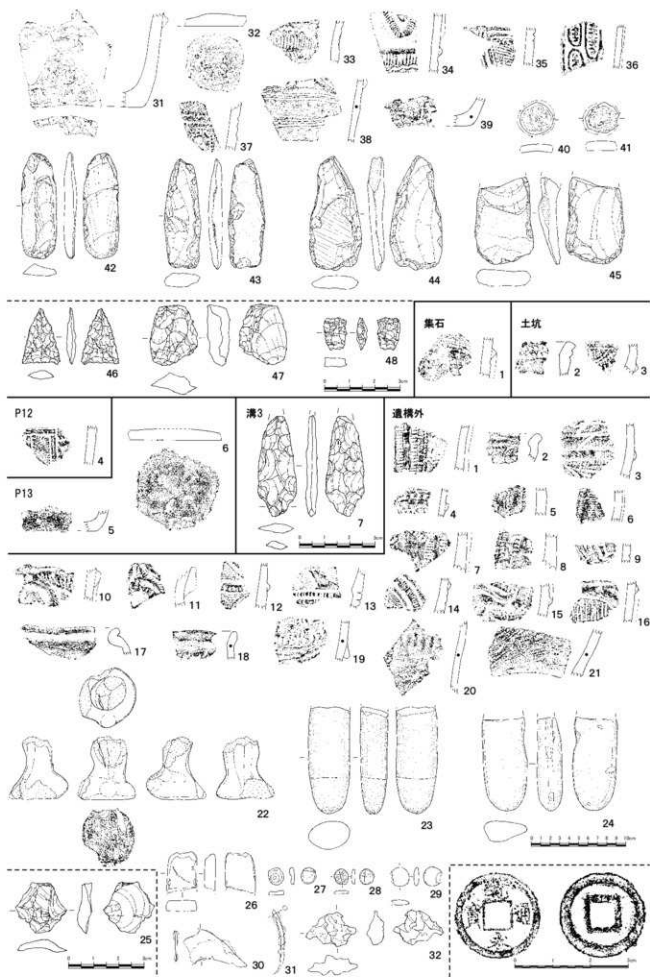
第59表 江川南遺跡第23地点出土土物観察表

(単位cm・g)

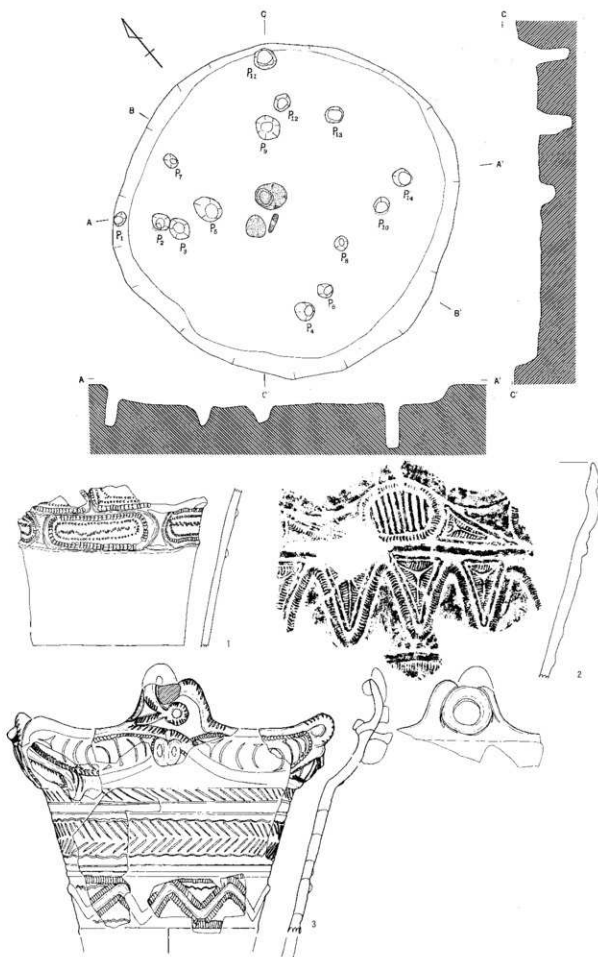
遺構	No.	種別・器種	口径・長	底径・幅	高・厚	重量	技法・文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
5号住居跡	42	打斧	11.20	3.70	1.40	64.45		砂岩	縄文時代	P3 No. 2
5号住居跡	43	打斧	11.55	3.95	1.50	89.18		砂岩	縄文時代	P3 No. 1
5号住居跡	44	打斧	12.15	5.55	1.85	131.62		砂岩	縄文時代	P3 No. 3
5号住居跡	45	打斧破片	9.30	6.20	2.30	133.67		砂岩	縄文時代	No. 85, 基部欠
5号住居跡	46	石皿	2.2	1.5	0.3	1.02		チャート	縄文時代	No. 34
5号住居跡	47	楕形石器	2.40	1.90	0.95	3.32		黒曜石	縄文時代	No. 107
5号住居跡	48	楕形石器	1.30	0.90	0.45	0.49		黒曜石	縄文時代	No. 33
溝3	7	石皿	4.00	1.55	0.50	3.02		ホルンフェルス	縄文時代	
遺構外	23	たたき石	11.25	4.4	2.8	227.84		砂岩	縄文時代	No. 6, No. 2
遺構外	24	たたき石	10.0	4.6	2.65	187.81		砂岩	縄文時代	
遺構外	25	楕形石器	2.05	2.00	0.55	1.47		黒曜石	縄文時代	
遺構外	26	砥石	[3.79]	3.06	1.30	25.8	表面側4面砥面。	凝灰岩	中世～	
遺構外	27	ガラス製品/おぼじき	1.70	1.53	0.48	1.83	型押し成形/青色・透明/気泡あり。表面に鱗。		近代	完形
遺構外	28	ガラス製品/おぼじき	1.56	1.42	0.36	1.25	型押し成形/青色・透明/表面に凹形のくぼみ		近代	完形
遺構外	29	土製品/彩石	1.96	[1.76]	0.59	1.89	手捏ね成形/白色顔料微量付着	在地?	近世	一部欠
遺構外	30	鉄製品/鎌	[7.09]	2.95	0.33	11.98				切先破片
遺構外	31	鉄製品/釘	[7.12]	0.57	0.48	4.48	角釘			頭部欠
遺構外	32	鉄滓	5.04	3.45	2.23	21.08				
遺構外	33	鏡背・銅鏡-電永通宝	2.285	0.651	0.107	2.21	電永通宝「新電永」		元禄11(1697)年新鑄	完形



第113図 江川南遺跡5号住居跡出土遺物①(1/4)



第114図 江川南遺跡5号住居跡出土遺物②集石・土坑・ピット・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)



第115図 江川南遺跡1号住居跡(1/60)出土遺物(1/4)

第5章 東久保遺跡第64地点の本調査

I 本調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、2006年10月12日から10月20日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年10月24日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を平板測量で実測、写真撮影を行い、同年10月26日調査を終了した。検出した遺構は時期不明の溝3条、櫛列である。

II 遺構と遺物

(1) 溝跡

調査区北東で南北方向の溝を15mに渡り4条検出した。溝1～3は本調査区の東側の14地点検出の溝1と北側の6地点で検出した溝6と連続しており、土地境の溝と思われる。溝4は6地点の溝7と連続するが14地点では溝の続きはなくなり、櫛列を検出する。4条の溝は平行しており、土層観察では溝3→溝2→溝1→溝4の順に新しく、西側から東側へ構築されている。

(2) 櫛列

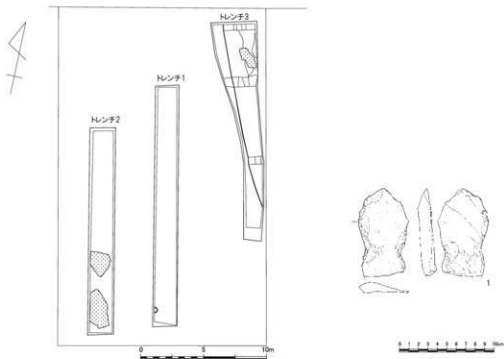
溝と直行する形で櫛列を検出した。東側に隣接する14地点でも櫛列の続きを検出するが、溝の東側で北へ曲がり溝と平行する。

(3) 出土遺物

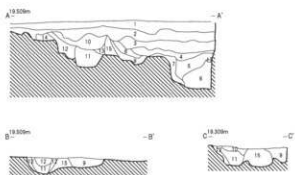
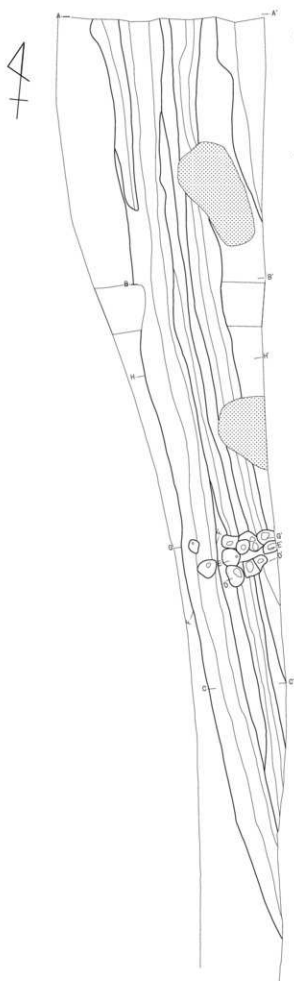
溝1から瀬戸・美濃産天目茶碗の口縁破片を1点検出した。他に打製石斧を溝2と溝4から1点づつ検出した。1は溝4出土の打製石斧、ホルンフェルス製。77.3g。刃部を欠く。

第60表 東久保遺跡第64地点土坑・ピット一覧 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	断面池台形	30~45	10~18	49~32	溝から北へ向かって約25%の勾配。天目茶碗破片出土。
溝2	断面「L」字形	55~90	15~30	32~42	溝から北へ向かって約1%の勾配。打製石斧出土。
溝3		25~(30)	10~18	32~42	
溝4	断面「L」字形	(75)~	(50)~	76	打製石斧出土。
P1	楕円形	22×20	2×2	36	
P2	不整形	28×22	11×6	19	
P3	円形	26×22	8×8	54	
P4	不整形	34×16	11×7	42	
P5	楕円形	(28)×24	13×11	22	
P6	円形	32×28	8×6	40	
P7	円形	30×27	3×3	42	
P8	楕円形	(22)×18	(14)×8	13	
P9	楕円形	36×25	16×12	45	
P10	不整形	26×22	16×12	44	
P11	方形	19×16	10×6	23	

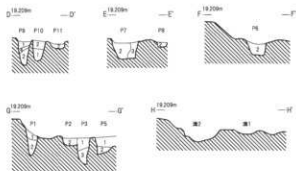


第116図 東久保遺跡第64地点遺構配置図 (1/300) 出土石器 (1/4)



溝

1. 暗褐色土 ローム土含む、最下部に白色砂礫、赤土
2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(1~5mm)やや多量
3. 暗褐色土 粘り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)・ローム塊(0.5~1.5cm)少量
4. 暗黄褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、暗褐色土ベースにソフト質のローム土多量、ローム塊(0.5~3cm)やや多量
5. 黄褐色土 粘り強、粘性やや弱、ローム塊(1.5~8cm)主体、すきまをソフト質ローム土多く含む暗褐色土が埋める
6. 暗褐色土 粘り有、粘性弱、ローム塊(1~5cm)多量、ベースの暗褐色土は灰色味がある
7. 黄褐色土 粘り強、粘性有、地山のローム土だが、灰色の土が入り込み面汚気味
8. 暗褐色土 粘り有、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)少量、ローム塊(1~20mm)多量
9. 黄褐色土 粘り有、粘性有、ローム塊(0.5~3cm)やや多量、ローム粒は少ない
10. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)均一に多量、ローム塊(5~20mm)少量、下部に黒色粘土(3mm厚)が裏層状に2枚はさまれる
11. 黒褐色土 粘り有、粘性弱、ローム塊(最大12cm, 0.5~3cm)多量
12. 黒褐色土 粘り強、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)少量、ローム塊(1~2cm)少量
13. 黒褐色土 粘り有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
14. 黒褐色土ベース 粘り強、粘性有、ローム塊(0.5~4cm)多量、すきまを黒褐色土が埋める
15. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒少量、ローム塊(最大11cm, 0.5~4cm)やや多量、おそろく一層白い膜の土
16. 黒褐色土と暗褐色土の互層 粘り強、粘性有、混入物の少ないシルト、粘り強、粘性弱、ローム粒(5mm以下)多量を含む暗褐色土、が交互に堆積する 水成堆積
17. 暗褐色土 粘り弱、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、16層の暗褐色土に似るが黒色味つよい、水成堆積と考えられる



溝内ビット

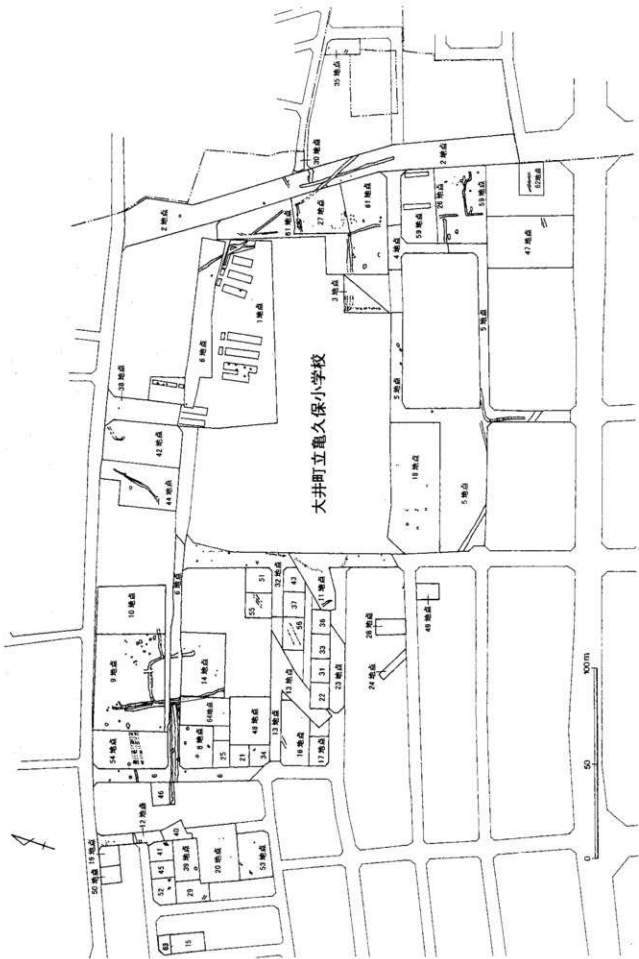
1. 暗褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、ローム粒わずか
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、ローム塊(5~10mm)やや多量
3. 暗褐色土 粘り有、粘性有、ローム粒多量、色味は明るい
4. 黒褐色土ベース 粘り有、粘性有、ローム塊(3cm以下)主体



第117図 東久保遺跡第64地点溝 (1/60)

表61表 東久保遺跡調査一覧表

遺跡	地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
東久保	1	東久保字東久保285-1他	(S51.6.29-S1.7.27)	10,000	小学校建設	縄文・集石土坑6基、土坑5基、片刃2基、溝2本、縄文土器・石器	大井町文化財報告第7巻 東久保遺跡
東久保	2	東久保290-1他	(H5.12.19-7.3.23 (H5.5.18-7.5.22) (H8.11.15)	2,472	区画整理道路 水道管理施設	中・近世・溝4本、ビット4、土坑5基	調査会報告第14巻
東久保	3	東久保284-1	(H8.5.20-8.5.29)	270	水道管理施設	溝2本、欄干1本、遺物無し	町内遺跡群Ⅱ 調査会報告第14巻
東久保	4	東久保364-1	(H8.6.7-8.6.10) (H8.9.2-8.9.4)	320	区画整理道路	旧石部権荘1基	町内遺跡群Ⅱ 調査会報告第14巻
東久保	5	東久保366	H8.11.22-9.3.5	3,314	区画整理道路	土坑3基、中世・欄干1、溝2本、ビット1	調査会報告第14巻
東久保	6	東久保271-1	<A区>H9.1.20-9.2.13 <B区>H9.2.24-9.3.19 <C区>H9.7.24-9.7.25 <D区>H9.8.6	2,309 168	区画整理道路	縄文・溝1穴2基、集石土坑1基、土坑1基、ビット5、溝8本	調査会報告第14巻
東久保	7	(東久保遺跡跡第1地点に変更)					調査会報告第14巻
東久保	8	東久保18街区11西地	(H9.7.29-9.8.2)	305	個人住宅	縄文・土坑2基、ビット2	町内遺跡群Ⅱ
東久保	9	東久保279、280	(H9.8.18-9.8.28) (H9.3.1-10.5.18)	2,117	共同住宅	縄文・集石土坑5基、土坑3基、ビット7、近世以降・溝3基	町内遺跡群Ⅱ 調査会報告第14巻
東久保	10	東久保19街区	(H9.9.2-10.9.11)	1,067	分譲住宅	縄文・集石土坑1基、近世以降・溝1本	町内遺跡群Ⅱ
東久保	11	東久保	H10.7.13-10.8.6 H11.3.11-11.3.12	588	区画整理道路	中世以降・欄干1本、ビット3、溝1本	調査会報告第14巻
東久保	12	東久保	H11.9.19-11.1.21	282	区画整理道路	縄文・集石土坑1基、ビット10、近世以降・溝2本	調査会報告第14巻
東久保	13	東久保381-5他	H11.5.19-11.5.20	260	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14巻
東久保	14	東久保18街区3南地	(H11.6.29-11.7.16) (H11.7.19-11.7.29)	823	共同住宅	溝2本、欄干1本縄文土器片、瓦質陶器片	町内遺跡群Ⅱ 調査会報告第14巻
東久保	15	東久保5街区14-16西地	(H11.8.2)	178	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	16	東久保15街区1-5	(H11.10.1-11.10.6)	334	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	17	東久保381-5	(H11.6.14-11.6.15)	168	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	18	東久保27街区2南地	(H11.11.30-11.12.15)	14,980	小学グラウンド 緑地	縄文・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	19	東久保3街区9-10南地	(H11.12.20-11.12.21)	108	商店併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	20	東久保4街区9南地	(H12.2.28-12.3.3)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	21	東久保18街区14南地	(H12.3.23-12.3.28)	114	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	22	東久保15街区28南地	(H12.3.22-12.3.23)	150	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	23	東久保	H12.3.13-12.3.16 (H12.3.27-12.4.6)	280	区画整理道路	縄文・土坑1基、礎土跡1基	調査会報告第14巻
東久保	24	東久保14街区	H12.1.19	300	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14巻
東久保	25	東久保18街区13南地	(H12.4.13-12.4.14)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	26	東久保31街区9南地	(H12.4.14)	1,107	砂利敷駐車場 溝、ビット	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	27	東久保29街区	H12.5.17-12.6.8	300	区画整理道路	縄文・ビット15、近世・土坑1基、欄干1本、溝2本	調査会報告第14巻
東久保	28	東久保11街区8南地	(H12.6.29-12.7.4)	130	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	29	東久保14街区18-20南地	(H12.6.30-12.7.4)	218	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	30	東久保294番2	H12.7.7	48	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14巻
東久保	31	東久保15街区28南地	(H12.6.7)	126	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	32	東久保277-381番地他	H12.7.12-12.8.4	265	区画整理道路	旧石部・石器製作跡2基、縄文・土坑2基、ビット12、溝・欄干各1本、	調査会報告第14巻
東久保	33	東久保15街区24南地	H13.7.16-13.11.30	528	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	34	東久保18街区15南地	(H12.8.2-12.8.3)	100	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	35	東久保23街区3-4南地	(H12.8.29-12.8.30)	110	個人住宅	ビット4	町内遺跡群Ⅱ
東久保	36	東久保23街区3-4南地	(H12.12.7-12.12.9)	139	個人住宅	溝1本、ビット1	町内遺跡群Ⅱ
東久保	37	東久保15街区21-22南地	(H13.1.19-13.1.25)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	38	東久保15街区13-33南地	(H12.12.11)	149	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅱ
東久保	39	東久保281-1番5-1	H12.12.13-12.12.15	501	区画整理道路	縄文・ビット1遺物無し	調査会報告第14巻
東久保	40	東久保14街区18南地	(H13.3.22-13.3.27)	317	個人住宅	縄文・溝1穴	町内遺跡群Ⅱ
東久保	41	東久保279-3、279-4	H13.3.23,13.6.1	128	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14巻
東久保	42	東久保4街区6-7南地	(H13.5.28-13.5.29)	112	個人住宅	近世以降・溝1本、遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	43	東久保19街区10南地	(H13.4.18-13.4.21)	864	駐車場	近世以降・溝1本、遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	44	東久保15街区14-15南地	(H13.5.22-13.5.25)	142	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	45	東久保19街区9-11、12南地	(H13.10-13.6.29)	757	倉庫	縄文・溝1穴1基、風洞木跡、ビット5、溝2本	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	46	東久保288-21	(H13.6.1)	100	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	47	東久保17街区13-4西地	(H13.6.4-13.6.6)	135	個人住宅	溝1本、縄文土器片2点、磁器片1点	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	48	東久保31街区6-13西地	(H13.10.11-13.10.26)	1,203	店舗	縄文・溝1穴1基、溝1本	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	49	東久保18街区9-10南地	(H13.12.12-13.12.25)	518	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	50	東久保13街区7南地	(H14.2.12-14.2.13)	100	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅡⅠ
東久保	51	東久保3街区22南地	(H14.9.24)	102	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	52	東久保18街区11南地	(H14.12.3)	155	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	53	東久保4街区13南地	(H15.2.6-15.2.7)	64	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	54	東久保字東久保272 (19街区1西地)	(H15.5.7-15.5.22)	408	共同住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	55	東久保字東久保488 (18街区7西地)	(H15.9.19-15.9.22)	798	共同住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	56	東久保字東久保15街区12西地	(H15.7.31-15.8.1)	165	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	57	東久保288-26(4街区14西地)	(H15.9.29-15.10.1)	133	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	58	ふじみ野2丁目25番2号	(H16.4.13-16.4.14)	357	分譲住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	59	ふじみ野2丁目25番7-9号	(H16.6.29 H16.7.12-16.7.23)	1,804	店舗	土坑4基、ビット9、溝2本	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	60	ふじみ野2丁目26番16号	(H16.7.22-16.7.24)	336	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	61	東久保29街区	H16.9.29-16.11.26	2,376	区画整理公園 緑地	縄文・土坑7基、ビット9、溝6本、調査区内の一部は第27地点で調査済	調査会報告第14巻
東久保	62	ふじみ野2丁目25番16号	(H16.10.12-16.10.15)	239	宅造成	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	63	ふじみ野2丁目5番10-12号	(H18.2.1)	105	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群ⅡⅡ
東久保	64	ふじみ野2丁目18-6の1部	(2006.10.12-10.20) 2006.10.24-26	437	共同住宅	近世・欄干1本、溝1本	町内遺跡群ⅡⅡ



据118图 東久保遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第6章 西ノ原遺跡第135地点の本調査

I 本調査の概要

調査は店舗併用共同住宅建設に伴うもので、2006年3月14日から4月28日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年5月29日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を平板測量で実測、写真撮影を行い、同年6月19日調査を終了した。検出した遺構は縄文時代中期の住居跡1軒、炉穴1基、ピット1基である。

II 遺構と遺物

(1) 183号住居跡

【位置】調査区の北側に位置する。西ノ原遺跡縄文集落内では、双環状に分布する中央南側の密集部分の52、69、128地点に近接するが、本調査区南側は一切遺構を検出しておらず、集落の外縁部分に当たると考えられる。

【形状】平面形態は隅丸の長方形を呈し、南北に長く、北側は若干幅広くなる。規模は主軸方位の南北方向で5.3m、東西4.35m。確認面から床面の深さは44cmであるが、耕作により本来の遺構覆土が削平されており、残りのよい箇所では床面まで65cmの深さがある。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央北寄り、南壁から2.5m、北壁から1.1mに位置する。径105×80cm・深さ8cmの楕円形を呈し、西側から南側にかけてローム面が被熱し赤化している。赤化部分は二重の帯状になっており、平坦で赤化していない帯状部分が10cmほどある。また、中央部分に径42×30cm・深さ20cmの楕円形ピットがある。

炉から5～10cm上の覆土中からは10cm前後の礫13点が土器片とともに集中して検出した。おそらく本来は、赤化していない帯状のテラスに石を埋設し、ピットに土器を埋設した石囲い埋燬炉であったと思われる。

炉2は住居北側、主軸線より東寄りに位置し、炉1とP1、P5、北壁から等距離にある。炉1とは30cm離れる。径50×50cm・深さ5cmの円形を呈し、径45×32cmの範囲のローム面が被熱し赤化している。

【ピット】床面上に11基、周溝内に10基検出した。P1～P4が主柱穴の4本柱と思われる。柱の間隔はP1～P2間とP3～P4間が2.35m、P2～P3とP1～P4が2.65mである。また、P5はP1とP4の中間、主軸線上にある。

P4から土器破片が出土したが、土器を復元すると胴部を打ち欠いた深鉢口縁部であった。炉1の炉体土器であった可能性もある。

南側にはP7・P9～P11のピット群が30～40cm間隔で並ぶ。

【周溝】住居の壁際を全周する。周溝幅20～25cm、深さ5～12cm前後である。南側だけ幅は10cmと狭くなる。周溝内には径15～25cmの円形ピット9基と23cm四方の方形ピット1基が検出された。深さは床面から17～32cmある。

【床・壁】壁は垂直に近い状態で立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

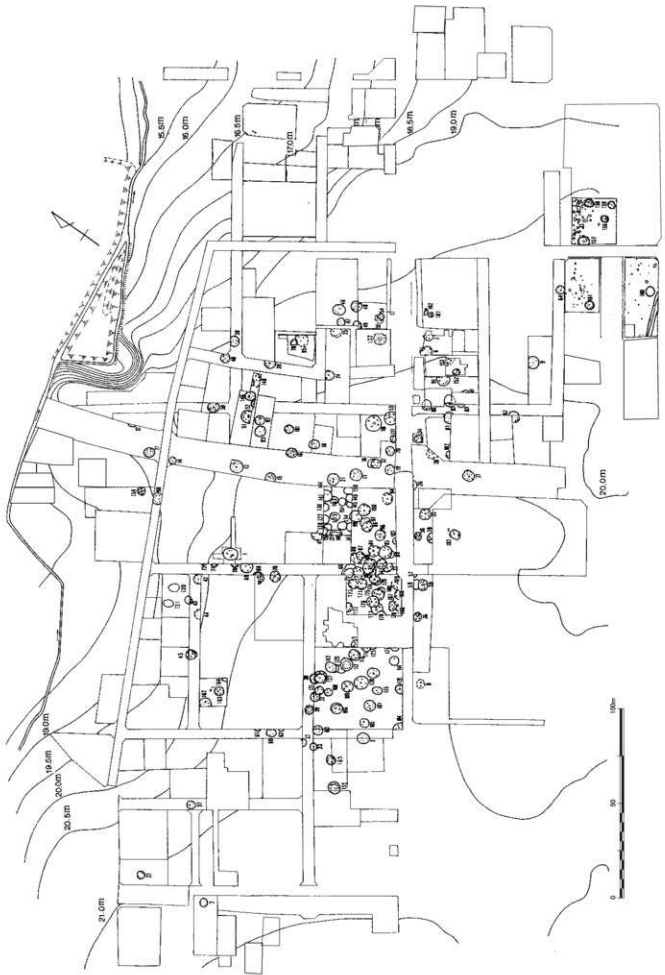
【時期】出土土器から加曾利EⅠ新式期

第62表 西ノ原遺跡183号住居跡ピット一覧表(単位:cm)

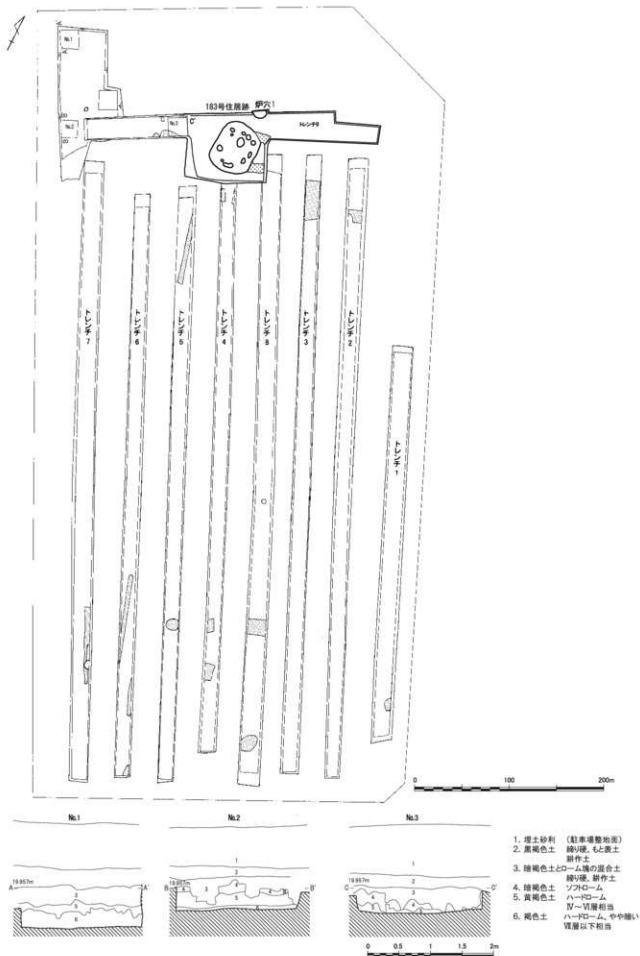
No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	43×43	26×24	95	主柱穴
P2	不整形	68×50	23×21	76	主柱穴、土器出土
P3	楕円形	62×56	50×28	60	主柱穴
P4	不整形	56×54	30×28	74	主柱穴、土器出土
P5	楕円形	44×24	5×4	34	
P6	楕円形	69×31	56×14	8	土器出土
P7	円形	26×21	6×6	22	
P8	楕円形	22×13	8×5	18	
P9	円形	24×23	8×8	19	
P10	楕円形	41×38	12×10	30	
P11	楕円形	54×33	6×4	27	

(2) 炉穴

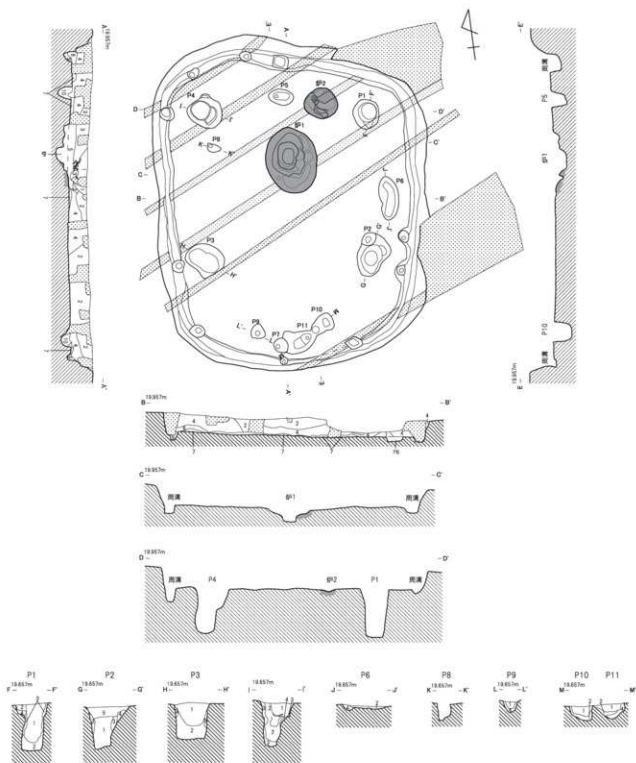
調査区北側、135号住居跡の1.3m北に炉穴を1基検出した。楕円形を呈すると思われるが、西側は植栽があり未調査である。長軸方向に130cm、短軸90cm、深さは確認面から35cmを測る。炉部分は土坑東側にあり、壁から底面にかけて67×58cmの範囲のローム面



第119図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)



第120図 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図 (1/400) 土層図 (1/60)



183住ベル-SPA

1. 灰褐色土 締りやや有、ローム粒(1mm)少量、炭土粒極少量
2. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、炭状のローム粒塊(2cm位)、
炭土粒・炭粉少量
3. 灰褐色土 締り有、ローム粒(1~2mm)多量、炭土粒・炭(1mm以下)少量
3'、 締りなし(板の影響か)
4. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒(1~3mm)多量、炭土粒・
炭(1mm)極少量
5. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、炭土粒(1~3mm)やや多量、
4層より細かい
6. 褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、炭状のローム粒塊少量
7. 褐色土 締り弱い、ローム粒(1~2mm)極多量、ローム塊(1~2cm)多量、床面
8. 褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm)極多量
9. 黄褐色土 締り弱い、ローム塊と褐色土の混合
10. 褐色土 締り弱い、ローム粒(2~5mm)極多量

183住 ピット1~11

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多量、炭化物(5mm大)わずかにP4、
炭土(3mm大)わずかにP3・4
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)少量、ローム塊(1cm大)わずかに
3. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、2層上に若干褐色色味を帯う土をベースに
ローム塊(0.5~2cm)多量、P4の下部は締り弱い暗褐色ローム土
4. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、ローム塊主体の緻密な堆積
5. 褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)ローム塊(1~1.5cm)多量、
炭化物(3mm大)わずかに、1層土の締りを強めたような土
P1~4の下部はブラック/レ/P4に通じている

0 0.5 1 1.5 2m

第121図 西ノ原遺跡183号住居跡 (1/60)

が被熱し赤化している。出土遺物はない。西側が足場部分になると思われる。

(3) 183号住居跡出土遺物 (第124図)

1は、P4出土の深鉢で胴上部以下を欠失し、口径24cm・遺存高14cmである。口縁部文様帯・頸部無文帯・胴部文様帯からなり、地文は口縁部・胴部共に縦位施文の捺糸文である。口縁部文様帯は隆帯貼付けによる区画文と渦巻文であり、渦巻部は前面に突出する。区画隆帯の上部は長い半円形4と短い円形1をつくり、隆帯の下方は山形と上・下連結の短い隆帯である。頸部無文帯の下方は、地文の上に貼付隆帯による直下と蛇行懸垂文を交互に配する。

胎土には白色細砂粒と石英の粉末を含み、焼成良好で暗い黄褐色を呈する。外面下部と内面上部に2次被熱によるハジケが著しい。加曾利E I式新式(加曾利第2様式)の中相である。

2～4は住居内ビット出土で、2はP6出土の口縁部文様帯から頸部無文帯にかかる地文縄文の土器片。

3は地文捺糸文に直下と蛇行の貼付懸垂文を加えた胴部片でP2出土。4は地文縄文に沈線の垂下文を加えた胴最下部。2と3は加曾利E I新式

5～45は183住居土出土である。

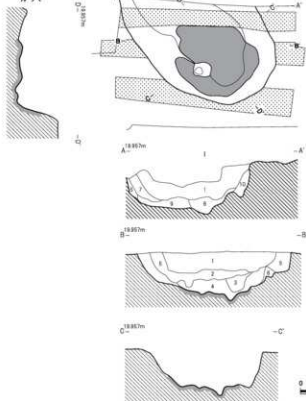
5と6は地文捺糸文の口縁部。7～10は口縁部文様帯の破片。11～14、16は頸部無文帯から胴部にかかる破片で、12は曾利系のもの。13は地文沈線で隆帯をもつ。17～24は胴部破片で、地文縄文のものも地文捺糸のものも共に隆帯貼付の懸垂文をもつ。7～26は加曾利E I新式である。27～34は無文の浅鉢であるが、口縁の特徴から3種類あり、いずれも1や、7～26と共存する類である。36は連華文をもち、35は区画文と三叉文をもつ筒形深鉢の口縁部。

第65表 西ノ原遺跡183号住居跡出土石器計測表

(単位cm・g)

遺物	No.	種別・器種	長	幅	厚	重量	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
183号住居	38	打製石斧	10.8	4.6	1.5	85.8		ホクソフェリス	縄文時代	No109
183号住居	39	打製石斧	7.9	3.6	2.0	84.9		緑泥石片岩	縄文時代	No55
183号住居	40	打製石斧	8.9	4.7	1.2	49.3		ホクソフェリス	縄文時代	P2-No1
183号住居	41	打製石斧	7.0	3.9	1.7	60.4		緑色凝灰岩	縄文時代	P3-No1
183号住居	42	スクレイパー	5.4	7.8	1.0	38.1		黒色頁岩	縄文時代	No25
183号住居	43	たつき石	10.3	4.5	3.2	188.9		砂岩	縄文時代	No45
183号住居	44	たつき石	9.7	6.7	1.9	195.7		砂岩	縄文時代	No61
183号住居	45	たつき石	7.2	8.6	3.1	273.5		砂岩	縄文時代	No43

炉穴



炉穴1

1. 赭褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・糞土(2mm以下)やや多量、ローム塊(5mm大)少量
2. 赭褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・糞土やや多量、1層に比べ黒色味がよく、含有物の粒径大き目のものが多い
3. 赭褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、糞土(5mm以下)多量、2層に比べ黒色味は少ない
4. 黄～赤褐色土 締り強、粘性有、糞土塊(1cm大)・糞土(5mm以下)多量、しみけに赭褐色土も含む
5. 褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、被熱して黄白色化した地山
7. 赭褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、炭化物・糞土(1mm大)わずか
8. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)主体でややボロボロしている、ローム塊(2cm大)少量、糞土(2mm大)やや多量
9. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、層間にしみけの黒褐色土・ローム粒(2mm以下)少量
10. 褐色土 締り強、粘性有、ローム塊(0.5～1.5cm)少量、糞土(3mm大)わずか

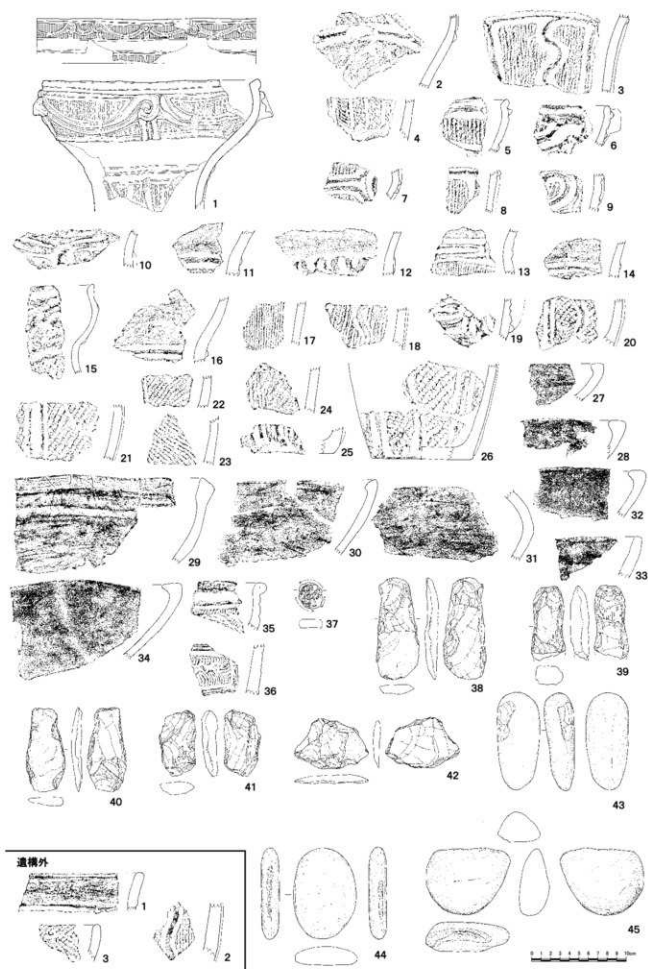
P1



ビット1

1. 黄褐色土 締り有、ローム粒少量

第123図 西ノ原遺跡第135地点炉穴(1/30) ビット(1/60)



第124図 西ノ原遺跡135号住居跡・遺構外出土遺物 (1/4)

第7章 神明後遺跡第28地点の本調査

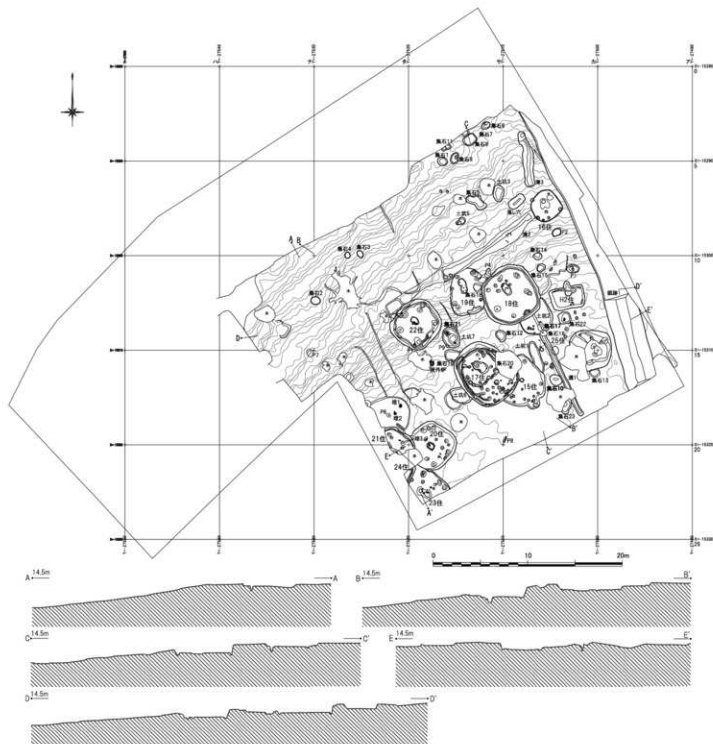
I 本調査の概要

調査は宅地造成工事に伴うもので、2006年5月8日から6月2日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

調査区は元々屋敷林で、幹径が2mを超える樹木が

数多くあったため、事業者によって根を残したまま伐採した後、2006年6月29日から本調査を開始した。遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。

調査区内には国家座標を元に、2m方眼のグリッドを設定し、業者に委託して10m間隔で杭打ちを行った。



第125図 神明後遺跡第28地点遺構配置図・断面図 (1/400)

グリッド設定は、北東隅を基準とし、南北方向に北から南へ0～25、東西方向に東から西へア～ハとした。グリッド名称は北東隅のグリッド交点を「カー10」、「ター16」等と呼称した。なお、試掘調査で設定したグリッド、トレンチとは運動していない。

遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を作り方測量及び業者委託による航空測量で実測、写真撮影を行い、同年10月5日調査を終了した。

検出した遺構は縄文時代中期の住居跡11軒、集石23基、炉穴3基、屋外炉1基、屋外埋設土器3基、奈良時代の住居跡1軒、土坑、ピット、時期不明の落し穴1基、溝4条、堀1条である。

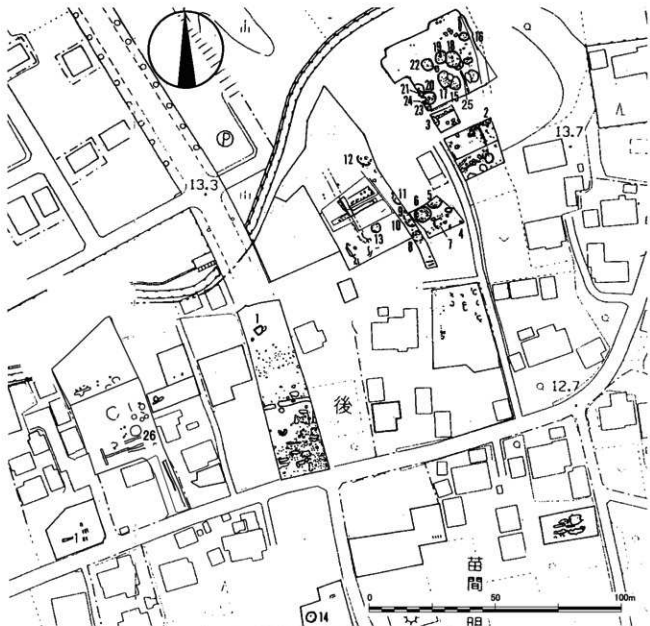
また、2006年9月23日には事業者の御理解のもと、遺跡見学会を実施し、500名近くの見学者が訪れた。

II 立地と環境

神明後遺跡は第II部第18章で述べたようにさかい川の右岸に立地するが、縄文時代の遺構は遺跡の北東部に集中する。特に、本調査区周辺の径100mの範囲に住居跡が分布し、2008年2月現在で縄文時代中期から後期の住居跡25軒を検出した。最も古い住居跡は27地点の14号住居跡で阿玉台Ⅱ式期である。本調査区はさかい川に向かう傾斜角5～10°の斜面地であるが、平坦な台地部分から斜面地にかけて住居跡が分布する。集石はさらに低い区域にまで分布し、さかい川からわずか10mの距離である。

古代の遺構は奈良時代の住居跡が本調査区で1軒、100m西側の第2地点で1軒検出した。

中世以降の遺構は本調査区と18地点でさかい川に直交する溝跡のほか地下式坑、土坑を検出する。



第126図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

第66表 神明後遺跡調査一覧表

番号	所在地	調査期間 (1)は 掘調査	面積 (㎡)	調査 類型	確認された遺構と遺物	所収 報告書
1	前開281-1	1993.5.6 -5.11	615	共同住宅	遺構なし、平安時代須賀 器片、銅器片	町Ⅱ
2	前開295-2、 299-3	1993.3.12 -5.20	1,688	掘築路遺	溝1,171、平室住居(14)号、 縄文土塊1、中世前期建柱 跡跡、地卜式扉1、扉1、基	町Ⅱ
3	前開309-12	1995.3.24 -3.29 1995.4.3-5.19	200	分譲住宅	縄文住居1軒(2号)、伏魔2、 埋土1、土塊2、ビッド34枚	町Ⅱ
4	前開302	1996.6.17 -6.19	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町Ⅱ
5	前開神明後 205-5	1997.3.15 1997.3.15 -4.2	80	個人住宅	縄文住居1軒(2号)、土塊5、 溝、他 縄文中期後半-後期前期	町Ⅱ
6	前開255、227-2	1997.9.29 -9.30	150	個人住宅	土塊1、土器片・石器片	町Ⅱ
7	前開260	1998.6.11 -6.23	1,460	個人住宅	近世地下室1	町Ⅱ
8	前開235-1	1998.7.13 -7.24	458	共同住宅	集石土塊1、土塊2、ビッド 40、横列1、溝	町Ⅱ
9	前開310-1	1998.8.11-11 1998.9.14-10.15	219	共同住宅	縄文住居4、集石土塊1、溝1、 穴1、縄文土塊2、古瓦土塊1、 丹波2、地卜室1、ビッド33	町Ⅱ
10	前開298-1	1999.9.16	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町Ⅱ
11	前開366	1999.10.21 1999.10.22 -10.26	238	個人住宅	土塊17、ビッド7	町Ⅱ
12	前開282-2-5	2000.3.6	211	共同住宅	遺構・遺物なし	町Ⅱ
13	前開302-1	2000.4.17 -4.19	694	個人住宅	土塊12、ビッド	町Ⅱ
14	前開252-2	2000.8.18 -8.23	357	共同住宅	土塊1、近世前期建柱跡跡 1、溝2、井戸1、横列、ビ ッド	町Ⅱ
15	前開293-15	2001.4.11 2001.4.12 -4.13	163	個人住宅	集石土塊1(阿玉台)	町Ⅱ 1

地点	所在地	調査期間 (1)は 掘調査	面積 (㎡)	調査 類型	確認された遺構と遺物	所収 報告書
16	前開309-14	2001.7.23 -7.31 2001.7.25-9.3	169	個人住宅	縄文室内埋土、土塊13、 溝2、地卜式扉1、地下室1、 埋土遺構1、ビッド28	町Ⅱ X 1
17	前開369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町Ⅱ X 1
18	前開304-1、 303-6	2002.5.15 -5.20 2002.5.27-6.23	672	分譲住宅	縄文中期住居5軒(8-12号)、 土塊、古代・中世前期	町Ⅱ X 2
19	前開264-4	2002.9.18 -9.20	216	個人住宅	横切溝、溝4	町Ⅱ X 2
20	前開293-11	2003.1.14 -1.15	143	個人住宅	中・近世溝2、ビッド2	町Ⅱ X 2
21	前開283-1	2003.1.10 -1.30	674	土地造成	ビッド7、井戸1、近世溝下 室2、土塊1	町Ⅱ X 2
22	前開235-2-3	2003.7.8 -7.20	430	分譲住宅	井戸1、土塊10、ビッド38、 江戸後期陶磁器	町Ⅱ X 2
23	前開253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町Ⅱ X 2
24	前開神明後 293-4-10	2004.9.30 -10.7	148	個人住宅	遺構・遺物なし	町Ⅱ X 2
25	前開295-1	(2004.9.30 -10.7)	66	古墳群 住宅	遺構・遺物なし	町Ⅱ X 2
26	前開神明後301、 303	2005.6.1-6.8 2005.6.15-6.30 -1.30、7-7	689	分譲住宅	縄文中期住居13軒(13号)、 中世後半式扉、近世土塊5、 溝18枚	町Ⅱ X 2
27	前開248-2、 249-1	2005.7.20-25 2005.7.27 -7.29	383	共同住宅	縄文中期住居14号(1号)	調18枚
28	前開神明後 306-1	2006.5.8-31 2006.6.28 -10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居11軒(15-25号)、 集石土塊5、溝なし、丹波3、 ビッド、溝4、古代・中世前期	市3
29	前開神明後 303-21,24	2006.5.8 -11 2006.5.12-19	136	個人住宅 建設	ビッド1、古代・中世前期	市3
30	前開神明後 303-1	(2006.5.8-19) 2006.12.14 -12.19	101	個人住宅 建設	ビッド12	市3

東=東部道路群、資=町史資料編、史=大井町史料、調=遺跡調査会、町=町内道路群、市=市内道路群

第67表 神明後遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	調査率	平面形 ()は推定	規 模	壁			障壁	拡張	埋溝	備 考	時 期	文 献	
				地床	埋設	石圍							
1号	10%	(円形)	不明	未測						○	中世土器の下	大井町史資料編Ⅰ	
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○					○	土塊と横合	加賀利EⅡ、栗本もEⅡ 町内遺跡群Ⅰ	
3号	45%	(円形)	410×不明×30			○					北半未測	加賀利EⅡ新 町内遺跡群Ⅰ	
4号	15%	不明	不明			○				○	視角悪い	加賀利EⅡ中 町内遺跡群Ⅱ	
5号	45%	(円形)	565×7×33	○							有	東北側未測	加賀利EⅡ新 町内遺跡群Ⅱ
6号	95%	円形	506×542×45	○	②						○	有遺構	加賀利EⅡ新古相 町内遺跡群Ⅱ
7号	70%	円形	不明×498×18	○							○	不明	東面床まで削平 加賀利EⅡ 町内遺跡群Ⅱ
8号	70%	(円形)	580×?			○	○				○	不明	床面視孔 加賀利EⅡ新 調査会報告16集
9号	50%	(不整形円形)	(490×270)			未測					○	10号に切られる	(加賀利EⅡ新相) 調査会報告16集
10号	50%	不明	(300×250)×50			未測					○	9号を切る	資料Ⅱ式 調査会報告16集
11号	40%	(不整形円形)	(490×?)×55			未測					○		加賀利EⅡ 調査会報告16集
12号	70%	(不整形円形)	(570)×560×80	○							○		加賀利EⅡ 調査会報告16集
13号	完測	隅丸方形	343×370×13	○	○	○	○						加賀利EⅡ 調査会報告18集
14号	完測	円形	404×400×20										2本柱のみ 阿玉台Ⅱ 調査会報告18集
15号	完測	円形	523×499×35			②							加賀利EⅡ 阿玉台Ⅱ調査14 町内遺跡群3
16号	完測	隅丸方形	328×327×25	②									加賀利EⅡ新 市内遺跡群3
17号	完測	隅丸長方形	684×525×70	②							○	有	北33、15位に切られる 加賀利EⅡ新 市内遺跡群3
18号	完測	隅丸方形	608×600×90	○		△					○		②=④の埋設、埋土64 加賀利EⅡ新 市内遺跡群3
19号	完測	隅丸長方形	476×448×60	②		△					○		②=④の埋設、埋土64 加賀利EⅡ中 市内遺跡群3
20号	完測	隅丸方形	473×483×28			○					○		要1口近く配石、表裏 加賀利EⅡ中 市内遺跡群3
21号	40%	(隅丸)	?×7×10								○		20・24住より古い 加賀利EⅡ新 市内遺跡群3
22号	完測	隅丸五角形	491×513×113								○		加賀利EⅡ新 市内遺跡群3
23号	25%	不明	?×7×21	②		△							石壁の可成り厚さ 加賀利EⅡ 市内遺跡群3
24号	10%	不明	?×7×55			未測					○		加賀利EⅡ 市内遺跡群3
25号	完測	不明	(500×400)×5			○					○		加賀利EⅡ新 市内遺跡群3

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 15号住居跡

【位置】調査区の南側平坦地、コー17に位置する。西側は17号住居跡と重複し、17号住居跡を埋めて本住居を構築している。

【形状】平面形態はいびつな円形を呈し、南側は70cm程張り出す。規模は主軸方位の北西-南東方向には樹木があり正確にはわからないが約6m、東西5.0m。確認面から床面の深さは35cmである。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央に位置する。径75×60cmの楕円形に石を配置した石囲い炉で、中央は深さ15cm程窪み、南東側は被熱し赤化する。

炉2は炉1の南東部に接しており、径40cm・深さ5cmの範囲が円形に比熱し赤化する。南東部を石で囲う。炉2の覆土は床面のように硬く締まっており、最終的には炉1を使用していたと思われる。

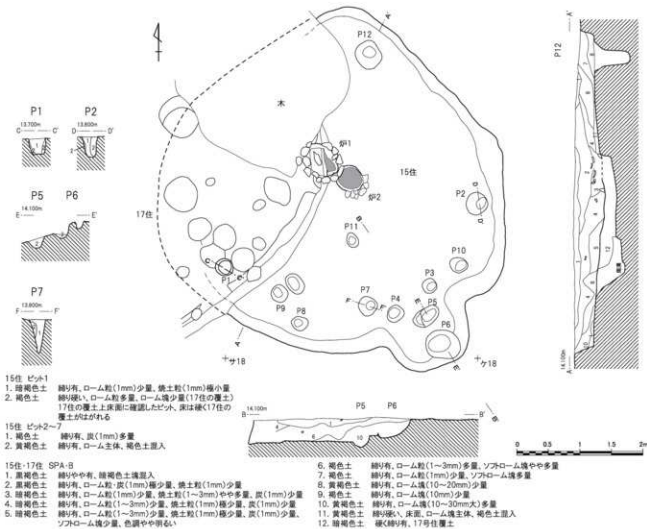
【ピット】床面上に10基、17号住居覆土内に1基検出した。P1・2・7・12が支柱穴と思われる。柱の間隔はP12-P2間が2.9m、P2-P7間とP7-P1間が2.4mである。

【床・壁】壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

【時期】出土土器から加曾利EⅡ～Ⅲ時期。

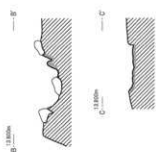
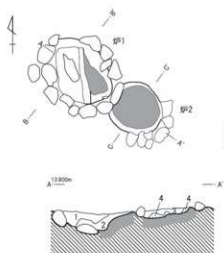
第68表 神明後遺跡第15号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	30×27	22×20	29	土器出土
P2	円形	36×34	20×13	34	
P3	円形	24×23	16×11	21	
P4	円形	28×26	18×15	13	
P5	楕円形	45×27	25×13	13	
P6	円形	54×45	34×26	26	
P7	円形	31×30	16×13	54	石堀出土
P8	円形	27×23	12×12	14	
P9	円形	28×27	16×12	15	
P10	円形	29×24	20×14	13	
P11	楕円形	24×18	14×12	11	
P12	円形	46×42	21×18	55	



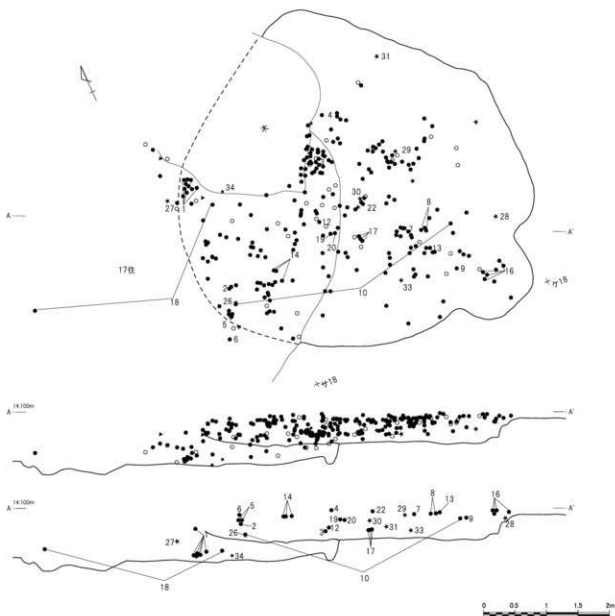
第127図 神明後遺跡15号住居跡(1/60)

炉



15住 炉

1. 暗褐色土
練り粉、ロ-ム粒(1~3mm)少量、
炭土粒(1mm)極少量
2. 褐色土
練り粉、ロ-ム粒(2~5mm)中や多量、
炭土粒(1~3mm)多量
3. 暗褐色土
練り粉、ロ-ム粒(1~3mm)少量、
炭土粒(1~3mm)少量
4. 褐色土
練り粉、ロ-ム粒(2~5mm)多量、
炭土粒(1~3mm)多量



第128図 神明後遺跡15号住居跡炉 (1/30) 遺物出土状況図 (1/60)

【出土遺物】(第129・130図)

1は波状口縁で胴中部がくびれる深鉢である。口縁から胴中部までを完存し、底まで接合した。推定口径18cm・器高23cmである。全面に縄文を施文した後に、口縁下に2本の沈線をめぐらせ、花卉状沈線と蛇行沈線を入れる。胴下半は直下と蛇行沈線を入れる。加曾利EⅢ式併行。

2は13片が接合した深鉢で2片は17住覆土から出土した。口縁部は重弧状沈線で頸部には2本の蛇行粘土紐をめぐらせ交互刺突を加える。胴部は地文熱糸文に隆帯を貼付けて垂下文をつくる。曾利系の土器。3～9は地文縄文で口縁部文様帯と胴部文様帯から成る深鉢で、3は区画文と渦巻文で口縁部文様帯をつくり、これに続く胴部は地文縄文で直下磨消懸垂文が入る。



第129図 神明後遺跡15号住居跡出土土器 (1/4)

4は長楕円形区画と渦巻文、5は渦巻文と区画文で文様帯をつくり胴部に貼付懸垂文をもち、地文は縄文である。6は大小の円形区画をもつ。7は丁寧に作られた小深鉢で、胴上部までの半分を残し口径14cm、現存高9cm。口縁部文様帯は長楕円形区画文で胴部は地文縄文で2本の沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ。3と7では磨消懸垂文がよく残る。8は渦巻文と長楕円形区画で口縁文様帯をつくり、胴部は7と同巧。これらは加曾利EⅡ式新相。9は地文縄文で、口唇に交互刺突文を加え、同上部には連弧文を入れる。

10は花卉状弧状磨消をもつ。11~13は櫛描沈線を地文とする深鉢で11・12の口縁部文様帯は長方形区画と円形区画からなる。11には大きい列点、13には無文口縁がつく。11~13は加曾利EⅡ併行。

14は胴中部がくびれた深鉢で花卉状を沈線で描き垂下沈線を加える。16は大深鉢の胴中部で花卉状を囲む

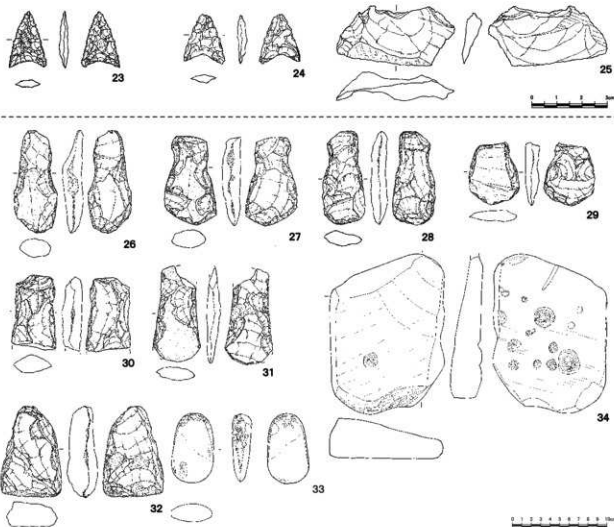
磨消の交差部。14~16は加曾利EⅡ式。17は無文口縁下に突出隆帯を作る。加曾利EⅡ併行の異系統の土器。18は地文縄文で連弧文と垂下沈線を入れる。

19は有孔鑄付土器であり、鑄の上下に孔が貫通する。表面には弧状隆帯の外に列点文を加える。裏面は黒色様磨きが加えられている。20は有孔鑄付土器の鑄部で、口縁基部に円孔が貫通する。21も有孔鑄付土器で内面に赤色塗彩がある。

22は深鉢の無文底部で、細く整美な網状痕が残る。石器は石鏃2、スクレーパー1、打製石斧9、敲石4、磨製石斧1、くはみ石1、剥片1の計19点が出土し、うち12点を図化した。

23と24はP7出土の黒曜石製石鏃。

15住出土土器は17住と重複するために、両者の接合例が多い。15住覆土出土の土器片890を割愛したが、それらは中期後半のものがほとんどである。



第130図 神明後遺跡15号住居跡出土土器 (1/4、2/3)

(2) 16号住居跡

【位置】調査区の北東、標高12.7mから13.05mの斜面上、クー7に位置する。

【形状】平面形態は隅丸方形を呈するが、埋堯と炉1を結ぶ線を主軸とすると、規模は主軸方位の南北方向で3.45m、東西3.35m。確認面から床面の深さは25cmである。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央やや北に位置する。径40cm、深さ5cmの円形部分が被熱し赤化する。赤化範囲の10～15cm周囲も熱のためロームが白色化し硬化している。また、赤化範囲を中心に、楕円形の窪みが南方向と南東方向の2方向にのびる。全体の規模は125×100cmである。

炉2は炉1の北東10cm、東壁から20cmの壁際にある。全体の規模は65×58cmの楕円形である。中央部分の径43×35cm・深さ5cmの範囲が被熱し赤化する。赤化範囲の周囲も熱のためロームが白色化し硬化している。

【埋堯】南側壁際に土器が斜めに埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設されていたピットは上端径30cm、下端径15×11cm、深さ25cm。

【ピット】床面上に6基検出した。P1～P5が主柱穴と思われ、埋堯とP5を結ぶ線を中心に五角形に配置する。柱の間隔はP1-P2間が1.5m、P2-P3間1.1m、P3-P4間1.9m、P4-P5間1.8mである。

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、床面は南側が高く北側が低い。比高差は15cmある。

第69表 神明後遺跡16号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	38×31	27×22	25	土器出土
P2	円形	30×30	13×13	26	土器出土
P3	不整形	42×33	19×13	14	
P4	円形	22×18	10×9	38	
P5	円形	22×19	9×7	14	
P6	円形	32×16	19×16	40	

【時期】埋堯から加曾利EⅡ式期。

【出土遺物】(第131図)

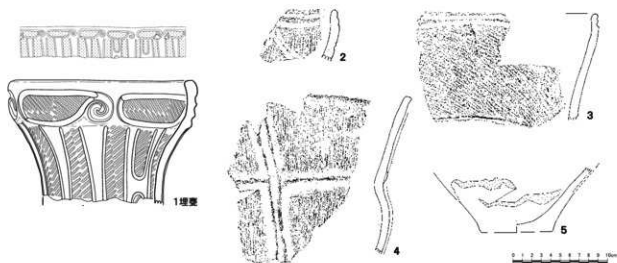
1は住居南壁近くに埋設された埋堯で、口縁から胴中部までを完存する深鉢で口径18.6cm・遺存部高13cmである。口縁部文様帯は平板な渦文と区画文で胴部はRL縄文を地文とし、2本の沈線間を広く磨消して直下懸垂文12単位をつくるが内3つはU字状磨消で上下折返しがある。加曾利EⅢ式に近い。

2は地文擦糸文で2本組みの連弧文を入れる。

3は素口縁深鉢で、口縁下の2本の沈線のみで、体部は単位の短いLR縄文の地文のみである。現存部高11cmである。1と同時期の深鉢。

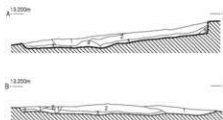
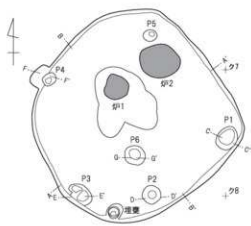
4は僅かに波状となる素口縁の深鉢で、胴中部までを遺存する。地文条線で、頸部に横位のほか、波頭部から貼付隆帯2本を垂下させる。加曾利EⅡ式併行の土器。5は浅鉢の底部であるがハジケ痕が著しい。

出土土器のうち60片を割愛したが殆んど加曾利EⅡ式とEⅢ式及び併行期のものである。黒曜石の剥片3も割愛した。



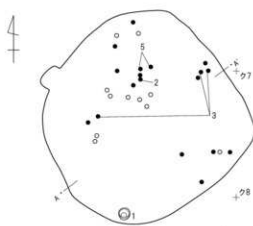
第131図 神明後遺跡16号住居跡出土土器 (1/4)

遺物出土状況



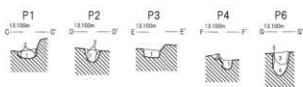
16住 SPA-B

1. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(1mm以下)やや多量、ローム塊(20mm以下)少量、獣骨含む、表土
2. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、炭土・炭化物(1mm以下)極少量
3. 暗褐色土 餅切強、粘性有、しみ状にローム土多量、焼土・炭化物(1mm以下)極少量
4. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)やや多量、色調暗め
5. 黄褐色土 餅切強、粘性有、地山のローム土に包まれる焼土・炭化物(1mm以下)少量

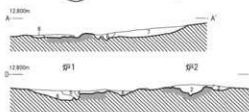
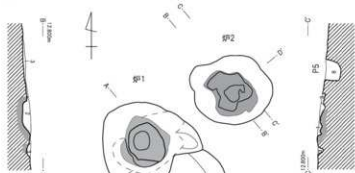


16住 ビット(主柱穴)

1. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(1~2mm)やや多量、炭化物(2mm以下)わずか
2. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム土のみ状の暗褐色土塊がやや密に堆積する
3. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、炭化物(3mm以下)やや多量、焼土(1mm大)少量
4. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、3層に比し色調暗め
5. 2層に同じ



炉



16住 炉 1-2

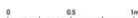
1. 暗褐色土 餅切強、粘性有、焼土(2mm以下)やや多量
2. 暗褐色土 餅切強、粘性有、焼土(5mm以下)多量
3. 暗黄褐色土 餅切強、粘性有、混入物少ないしみ状のローム塊含む、焼土(1mm以下)わずか、變成面裏の土
4. 暗褐色土 餅切有、粘性有、焼土(5mm以下)多量
5. 暗褐色土 餅切有、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)多量
6. 暗褐色土 餅切有、粘性有、ローム塊(5~10mm)多量
7. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、ローム分多量、色調明るい地山の土とはあきらかに違う

埋壘



16住 埋壘

1. 暗褐色土 餅切強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、焼土(1mm以下)わずか
2. 暗褐色土 餅切有、粘性有、ベースとなる暗褐色土は1層に比し色調暗め、ローム粒(2mm以下)やや多量、炭化物(1mm以下)わずか



〔3〕17号住居跡

【位置】調査区の南側平坦地、シー-16に位置する。東側は15号住居跡と重複し、15号住居跡によって壊される。また東側も樹木によって壊される。

【形状】平面形態は隅丸長方形を呈し、若干南側の幅が広がる。規模は主軸方位の北西-南東方向で6.85m、横幅5.45m。確認面から床面の深さは70cmである。

【炉】炉は重複した状態で2基検出した。全体規模は175×100cmある。

炉1は住居中央北西寄りに位置し、炉2を埋めて構築している。上端幅90cm・深さ20cmの楕円形を呈し、中央から南西側にかけて径50cmのローム面が被熱して赤化し、20cmほど窪む。赤化部分の周囲10~20cmが溝状に10cmほど深くになっている。おそらく本来は、赤化していない帯状の溝に石を埋設した石囲い炉であったと思われる。

炉2は住居中央、炉1の南東部に重複し、炉1より古い。上端125×100cm・深さ15cmの隅丸長方形を呈し、中央部分の90×55cmのローム面が被熱し赤化する。

【埋壘】南東側壁際で若干内側向きの斜め方向に土器が埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設していたピットは上端径36cm、下端径20cm、深さ30cm。

【周溝】周溝は5本検出した。上幅は15~30cmである。溝1は最も内側で、3.5×3.5mの規模があり、床面からの深さ4~8cm前後と浅く、ローム主体の土で硬く踏み固められていた。

溝2は溝1の南西側へ50cm、主軸方向の南東側へ70cm広くなり4.0×4.0mの規模、溝3は溝2より南東側へ80cm外側に構築され、4.0×4.8mの規模である。溝1と同じくローム主体の土で硬く踏み固められていた。床面から深さ12cm、断面「U」字形。

溝4は溝3から短軸方向へ30cm、主軸方向の南東側へ50cm広くなり6.0×5.0mの規模。床面からの深さ15~25cm前後で、南側ほど深くなる。断面「コ」字形。

溝5はテラスのように床面が一段高くなった最外周の壁際に部分的に構築されている。溝4から主軸方向の北西側と北東側に30cm広くなり6.2×5.2mの規模。床面から深さ20cm、断面「コ」字形。

【ピット】床面上に35基検出した。P13・17・19・21は溝1に伴い、P1・9・12・14・22は溝2、P4・5・6・8・10は溝3に、P2・7・11・15・18・20は溝4に伴う柱穴と思われる。溝4の段階ではP2・11・14・15・20が主柱穴と思われ、柱の間隔はP2-P11間が3.0m、P11-P14間は2.5m、P14-P15間は1.9m、P15-P20が2.4mである。

【床・壁】壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央がやや深いものはほぼ平坦である。

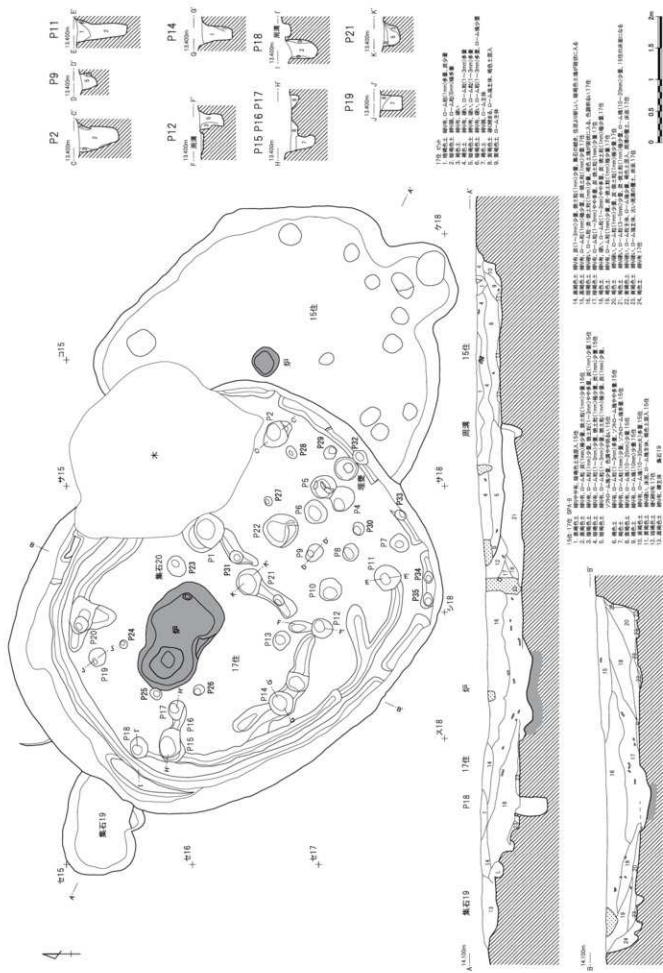
【時期】出土土器から加曾利E1新〜EⅡ時期。

第70表 神明後遺跡17号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

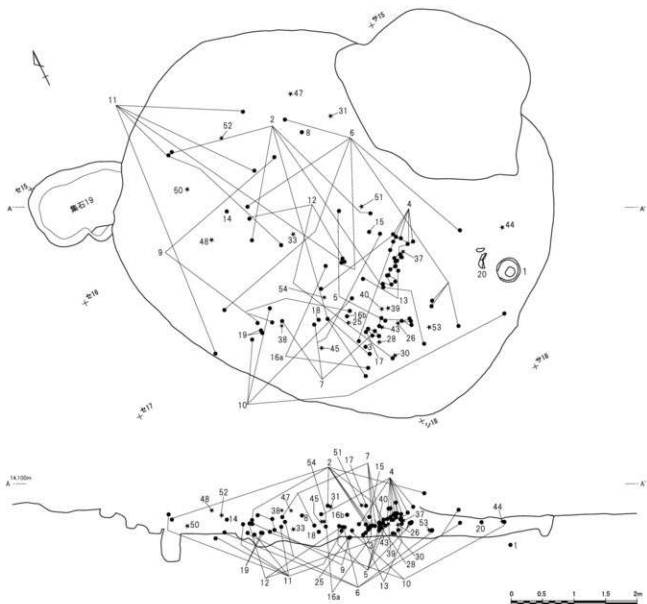
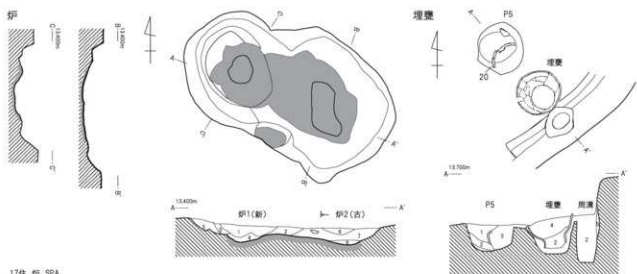
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	67×64	32×29	66	
P2	楕円形	52×38	27×23	70	土器出土
P3	円形	22×18	14×12	20	
P4	円形	42×38	20×16	14	
P5	円形	42×36	29×24	20	打穿出土
P6	円形	39×34	25×17	13	
P7	円形	31×30	14×11	12	
P8	円形	28×26	20×12	63	
P9	楕円形	30×23	11×10	44	
P10	円形	37×36	22×19	16	
P11	円形	42×40	18×14	80	土器出土
P12	円形	34×30	18×15	36	
P13	円形	30×25	16×14	43	土器出土
P14	円形	40×38	26×20	52	
P15	楕円形	49×36	34×25	42	
P16	不整形	一×18	15×8	12	
P17	円形	31×22	16×13	14	
P18	円形	34×28	16×15	60	
P19	円形	28×28	10×6	35	
P20	不整形	87×54	13×8	56	
P21	円形	43×41	32×27	25	
P22	円形	54×50	42×40	11	土器出土
P23	円形	35×29	15×10	18	
P24	円形	12×12	8×8	16	
P25	円形	18×16	10×8	9	
P26	円形	15×15	10×10	12	
P27	楕円形	15×11	8×5	12	
P28	楕円形	20×15	10×5	7	
P29	円形	23×20	12×12	10	
P30	円形	20×18	14×10	16	
P31	円形	20×19	10×10	31	
P32	楕円形	28×22	15×12	38	
P33	楕円形	20×14	12×8	32	
P34	楕円形	18×15	12×10	14	
P35	楕円形	22×15	12×10	14	

【出土遺物】(第136~138図)

1は埋壘であり、口縁から胴中部までを完存し、口径34.6cm・現存高21cmである。口縁部・胴部共に地文はRL縄文である。口縁部文様帯は渦巻文と区画文で



第133図 神明後遺跡15号・17号住居跡 (1/60)



第134図 神明後遺跡17号住居跡炉・埋壁 (1/30) 遺物出土状況図① (1/60)

あるが、渦文間がつなぎ文状に連結すること、渦巻の先端がペン先状という特徴がある。頸部無文帯下に粘土紐を貼付けて蛇行状にめぐらす。胴部には2本組み隆帯を貼付けて直下懸垂文とする。赤～黄褐色を呈する。加曾利EⅠ新式であるが曾利系の要素を含む。

2は口縁から胴中部までを遺存する深鉢で、口径25cm・現存高18cmである。幅狭の無文口縁下に隆帯をめぐらせ体部と区別する。体部の地文は管状工具による縦位の沈線列であり、隆帯を貼付けて2本組み直下懸垂文の基部は前方に突出する。胎土には橙色粒子を多く含み、焼成良好である。加曾利EⅠ新式に併行する曾利系土器である。

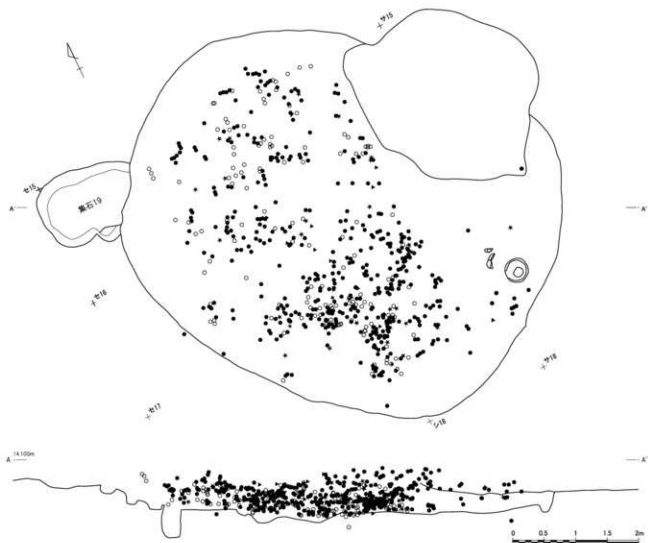
3は底板を欠くほかは口縁から底部までをほぼ完存する小深鉢で、口径17cm・器高18cmである。無文口縁の下に段差を削り、櫛状工具による条線文を地文とし、

10本の貼付垂下文をもつ。加曾利EⅡ式併行の曾利系土器である。

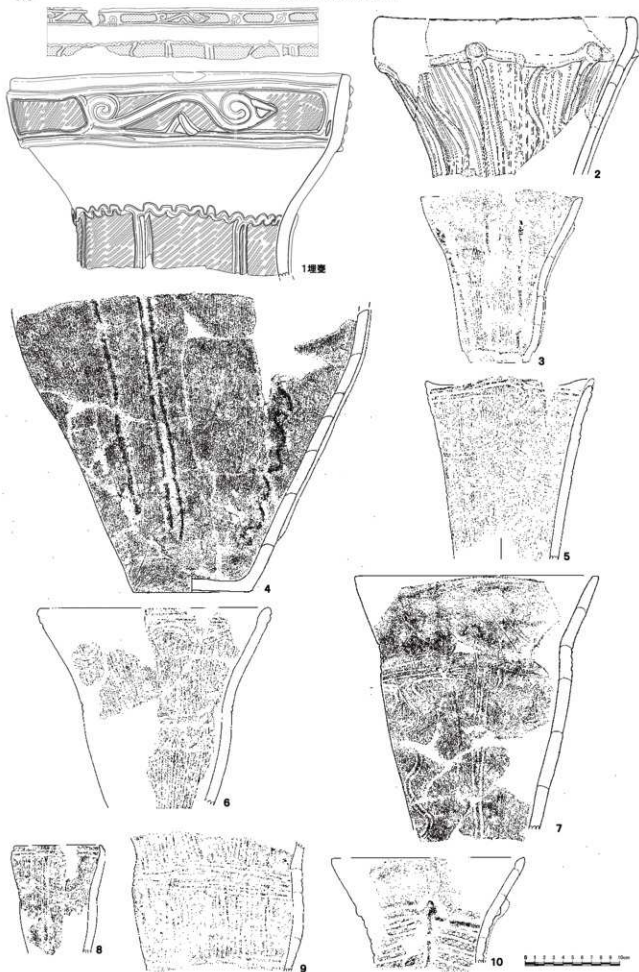
4は地文条線の大型深鉢で胴上部から底部までをほぼ完存する。胴部径33cm・底径13cm・現存高31cmである。胴部には直下懸垂文と蛇行懸垂文を貼付けるが直下懸垂文には2本組みと単線のものがある。粗製の曾利Ⅲ式。

5は地文条線の深鉢で底部を欠くほかは3/4を遺存する。口径18cm・胴部径11cm・現存高19cmである。口縁は4単位の波状口縁で、2本組み沈線で渦巻文を描く。胴部には2本組み沈線を2段めぐらす。上段は端部が僅かに渦巻きになる。外面上部に煤附着。

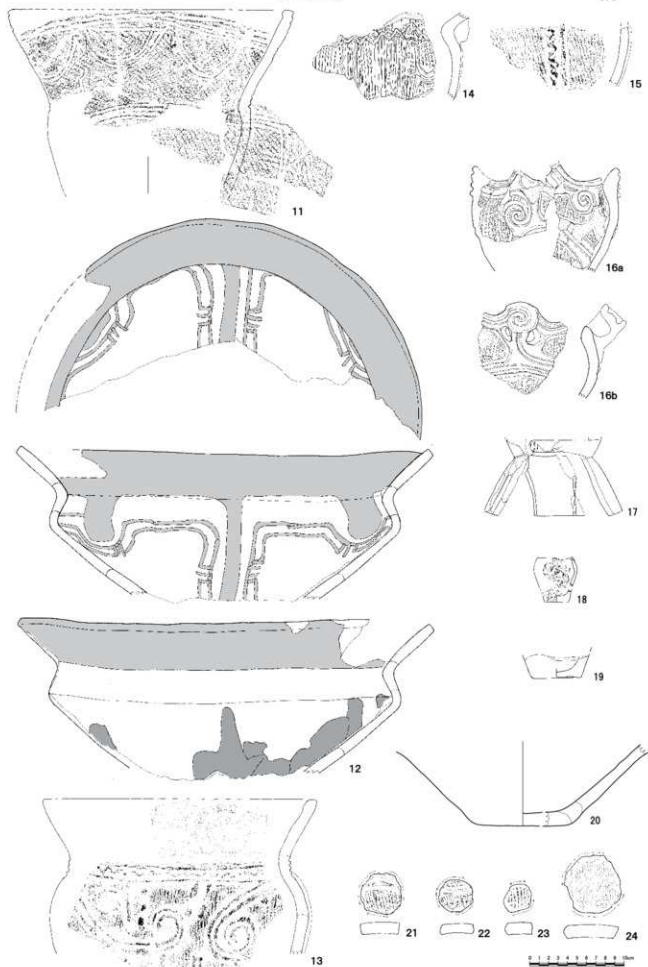
6は地文条線の深鉢で、口縁から胴中部の50%を遺存し、推定口径25cm・現存高21cmである。半裁管状工具による2本組み沈線の連弧文と水平沈線を、口縁と胴部中部の2段にめぐらす。



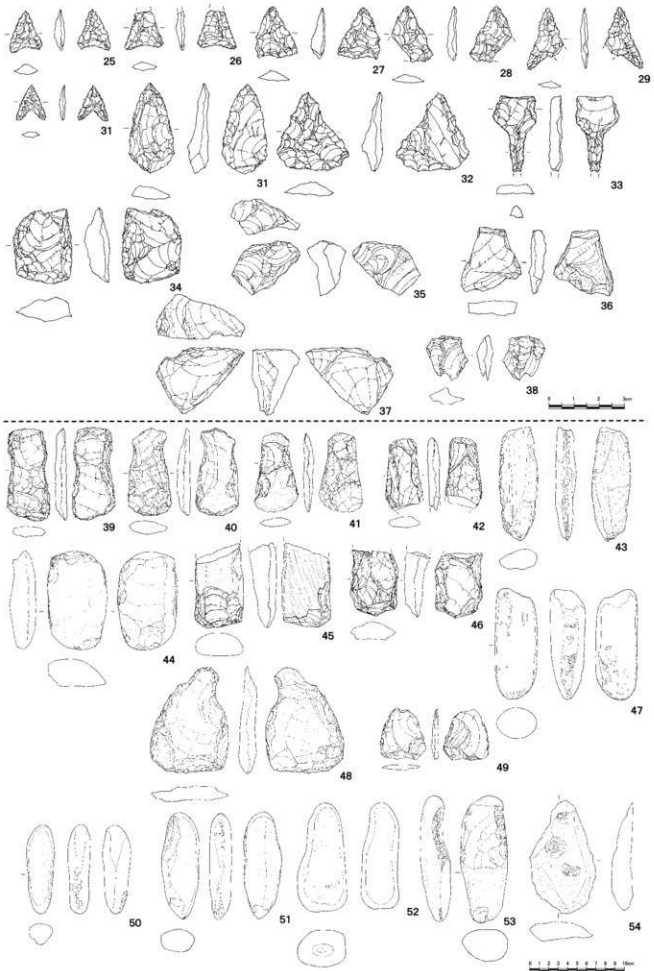
第135図 神明後遺跡17号住居跡遺物出土状況図② (1/60)



第136図 神明後遺跡17号住居跡出土土器① (1/4)



第137図 神明後遺跡17号住居跡出土土器② (1/4)



第138図 神明後遺跡17号住居跡出土石器 (1/4、2/3)

7は素口縁の深鉢であり口縁から胴下部までを遺存し口径25cm・現存高25cmである。地文は全面条線であり、口縁には連弧文が描かれ、胴部には2本組みの直下と蛇行懸垂文が沈線でラフに描かれる。加曾利EⅡ式に併行する曾利系土器である。

8はミニチュア深鉢で口縁から胴中部の50%を遺存し、口径10cm・現存高12cmである。地文条線の上に、胴上半には2本組みの連弧文、胴下半には直下懸垂文があり、胎土には白色細砂粒・橙色粒子を含むが整形は入念。

9は口縁と胴下部を欠くが胴中部を完存し、胴中部径16cm・現存高15cmである。半藪竹管状工具による縦位の沈線列を地文とし、頭部と胴下部に数本の沈線をめぐらすのみ。胎土に石英と微砂を多く含む暗褐色を呈する。

10は素口縁の深鉢であり口縁から胴下部までの1/3を遺存し推定口径26cm・現存高12cmである。地文は縦位RL縄文。胴部境に隆帯をめぐらせ懸垂隆帯を貼り付け、隆帯間を沈線であばら骨状に描く。

11は地文LRL縄文の深鉢で、口縁から胴中部の40%を遺存し、推定口径30cm・現存高21cmである。口縁直下に2本組み沈線の水平沈線と連弧文を、胴部中に水平沈線と懸垂文を描く。一部の連弧から蛇行沈線が垂下する。

12は口縁から体下半部までの約40%を残す無文の大型深鉢で、口径40cm・現存高28cmである。外反する口縁の下に内傾する口縁無文帯・体部と続く。整形は入念で、口縁の内外共に塗彩がある。本器の特徴は、器の内面全面にみられる塗彩文様である。赤と黒の彩色で2本組みの直曲線を底から口縁に伸ばし、器の屈曲部で左右に伸ばし、共に円形の外側を囲む。左右対称の図であり、4単位描かれた可能性が高い。赤と黒の彩色図形であるが、類例も知られぬ新資料である。浅鉢の形は加曾利E期のものである。6片を接合したが他の破片は不明。

13は素口縁の深鉢で口縁から胴下部までの約20%を遺存し推定口径29cm・現存高18cmである。地文は撚糸。頭部に交互刺突の蛇行隆帯、胴部には2本組み隆帯で唐草文(渦巻文)が描かれる。胎土に角閃石粒を含む。加曾利EⅡ式に併行する曾利系土器である。

14は粗い擗捺条線を地文とする深鉢で、頭部に2本の蛇行隆帯をめぐらせ、胴部には貼付隆帯でクランク文と蛇行文をつくる。加曾利E式併行の曾利式。

15は地文撚糸の深鉢で、交互刺突の蛇行懸垂隆帯と懸垂隆帯を貼り付ける。

16aと16bは同一固体と思われる地文撚糸の深鉢で、口縁は渦巻き文の中空把手を配し、胴部にも渦巻き文を隆帯で貼り付ける。口縁外面に炭化物付着、内面にはハジケが認められる。

17は土器を乗せる器台で、脚下部の一部は中央で、弧状沈線で囲む。

18は無文のミニチュア土器で波状口縁。推定口径4cm・底径2.5cm・高4.8cm。19深鉢の、20は浅鉢の底部破片で、20はP5出土。

21~24は側面調整の著しい土製円盤で、地文は異なり21と22は地文撚糸文、23は沈線列、24は条線である。いずれも加曾利E式のもの。

17住出土土器は15住と重複するために、両者の接合例が多い。17住覆土出土の土器片3000を割愛したが、それらは中期後半のものがほとんどである。

石器は石鏃7、石槍2、ドリル1、楔形石器3、石核2、石匙1、打製石斧10、敲石7、磨製石斧1、磨り石3、石刃1、くぼみ石1、剥片1の計39点が出土し、うち30点を図化した。

(4) 18号住居跡

【位置】調査区の中央サー12、平坦地から斜面地にかけて立地する。西側は19号住居跡と重複し、19号住居跡によって壊される。

【形状】平面形態は胴張りの隅丸方形を呈する。規模は主軸方位の南北方向で4.5m以上、横幅4.0m。確認面から床面の深さは90cmである。

【坪】坪は住居中央北西寄りに位置する。上端幅142×75cm・深さ15cmの楕円形を呈し、中央部分のローム面が被熱して赤化するが、赤化部分の中の110×60cmの範囲は10~20cm幅で溝状に5cmほど深くなり、赤化していない。溝に石を埋設した石囲い坪であった可能性がある。

【埋差】南東側壁際で若干外側向きの斜め方向に土器が埋設されていた。底近くには10cmほどの平たい自然

襪が置かれていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設していたピットは上端径45cm、下端径22cm、深さ24cm。

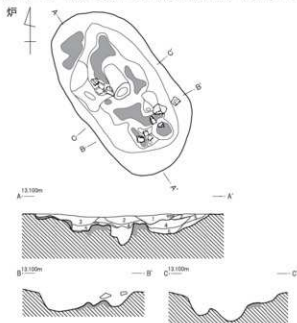
【周溝】周溝は1本検出した。上幅は25~35cm、下幅10~25cm、深さ25~30cm、断面「U」字形である。

【ピット】床面上に14基検出した。P1・3・6・7・8の5本が支柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P3間とP6-P7間が2.2m、P3-P6間は3.7m、P7-P8間とP8-P1間が1.7mである。P1とP2は掘り換えがありP2が古い。

第71表 神明後遺跡18号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	54×50	30×22	63	P2より新
P2	-	44×-	-×-	63	P1より古
P3	円形	61×50	36×21	97	西より新 土器・石器出土
P4	円形	54×42	48×26	37	P3より古 土器出土
P5	円形	45×40	14×13	72	土器出土
P6	円形	67×61	17×16	81	土器出土
P7	円形	47×41	16×12	56	
P8	不整形	74×46	30×21	61	
P9	楕円形	42×34	19×16	19	
P10	楕円形	50×35	24×15	79	
P11	円形	27×24	15×12	13	
P12	円形	28×26	11×10	13	
P13	不整形	24×19	12×8	11	
P14	不整形	28×26	18×16	11	

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、斜面の高い部分で90cm、低い部分で30cmの掘り込みがある。床面は平坦



- 5F
1. 暗褐色土 砂り有、粘土粒(3~5mm)極多量、皮(1mm)少量
 2. 褐色土 砂り有、ローム粒(1~3mm)少量、皮(1mm)少量
 3. 褐色土 砂り有、皮(1mm)少量、粘土粒(1~3mm)極多量
 4. 暗褐色土 砂り有、炭土塊多量
 5. 黄褐色土 砂り有、難で硬化したロームに褐色土が入ったもの

である。

【覆土】床面から10~40cmほどすり鉢状に埋没した時点で大量の土器が出土している。

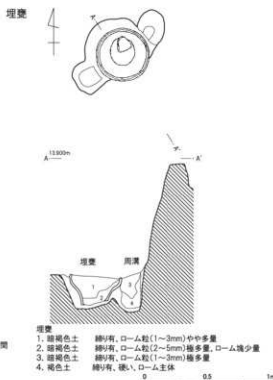
【時期】埋裏土器から加曾利E I新式。

【出土遺物】(第142~145図)

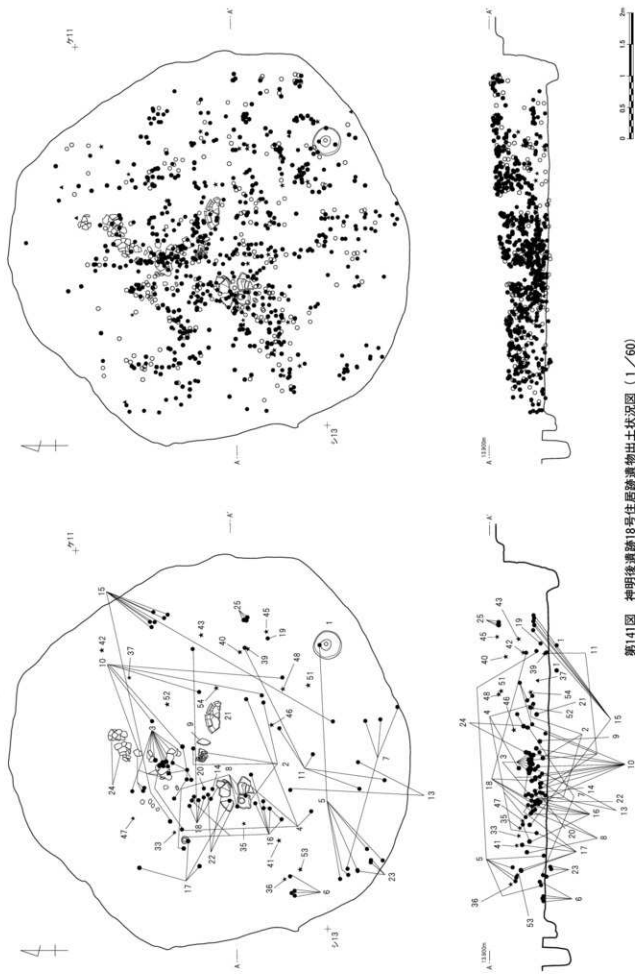
1は住居の床面南壁溝寄りに埋設された埋裏で、胴最上部以下を欠失し、口径39.4cm・遺存部高21cmである。口縁文様帯は区画文と渦巻文の2段構成で平板な特徴をもち、地文は小さいRL縄文である。幅の広い頸部無文帯下に胴部との区画沈線3本をめぐらす。以下を欠失する。胎土に橙色粒子を含み焼成良好で暗褐色を呈する。加曾利E I新式。

2は中空の波頭把手4をもつ深鉢の完形品で、口径21cm・器高27cmである。口縁部文様帯は、地文の縦位の沈線列の上に、隆帯で区画文と渦巻文の4単位を作るが、区画文の端部が渦巻いて中空の把手となる。幅の狭い頸部無文帯下の胴部は、地文RL縄文の上に、3本組垂下沈線と2本組蛇行沈線を4単位加える。

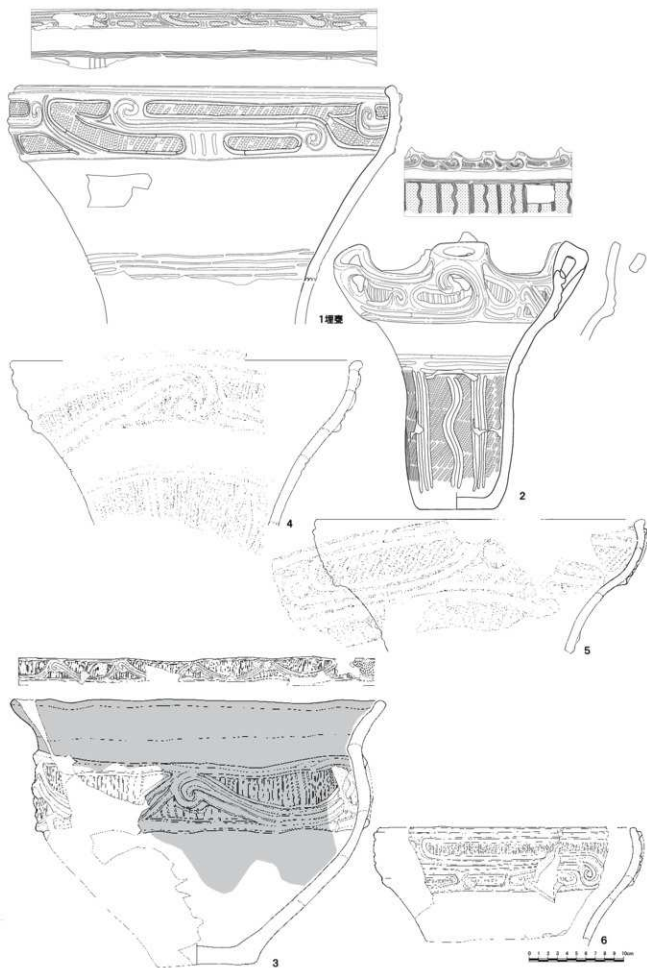
3は口縁から底までほぼ完形に復原しうる大形浅鉢で、口径38.2cm・底径11.5cm・器高28.5cmである。やや外反する無文口縁下に幅広い文様帯がある。縦位の沈線列を地文とし、隆帯で区画文と渦巻文6単位をつくる。体部は無文で整形入念である。焼成は良好で、口縁は赤色・他は黄~赤褐色で口縁部の内外に赤色塗



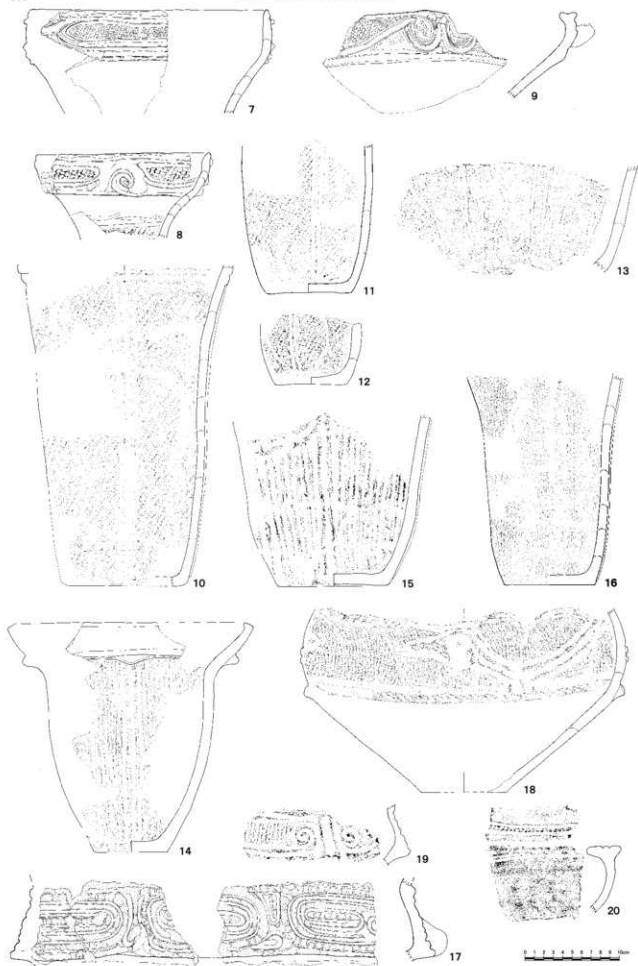
第140図 神明後遺跡18号住居跡・埋裏 (1/30)



第141図 神明後遺跡18号住居跡遺物出土状況図(1/60)



第142図 神明後遺跡18号住居跡出土土器① (1/4)



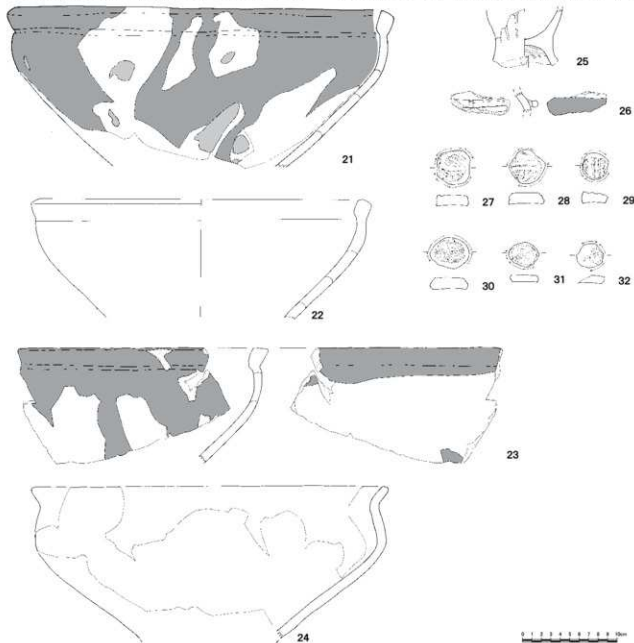
第143図 神明後遺跡18号住居跡出土土器② (1/4)

彩が認められる。加曾利E I式大型浅鉢である。

4～11は口縁部文様帯・頸部文様帯・胴部文様帯からなる深鉢で、4～6は2本組み隆帯で長楕円形区画と渦巻文で口縁部文様帯をつくる大形深鉢で、4の地文は深い燃糸文を地文とし、胴部には2本組直下と蛇行懸垂文6単位で口径36cmである。5は地文縄文で4に近い文様構成をとるが渦巻文が突出し口径34cm。6は雑な燃糸文を地文とする中形深鉢。7は地文縄文で渦巻部が突出する。8は地文縄文の小深鉢で、口縁文様帯は沈線で区画し、胴部は地文のみ。4と5は典型的な加曾利E I新式新相。6～8は加曾利E I新式新相。

9は口縁部や文様帯の渦巻部が変形し地文縄文が残

る。10は胴中部から下部までの80%を遺存する。地文はRL縄文で貼付隆帯による懸垂文は8単位。11は密なRL縄文を地文とし、2本組み沈線の直下懸垂文と沈線による蛇行懸垂文6単位をもち底径9cm。12は11と同巧の底径7.5cmの深鉢。13は地文縄文で組成は11と同様であるが整形・施文共にラフな大深鉢。14は無文口縁の中形深鉢でラフな燃糸文を地文として沈線による懸垂文をもつ。15は太い沈線を地文とし貼付隆帯による垂下文を加える底径12cmの深鉢。16は胴中部から底までを残す底径9.6cmの深鉢であるが、地文と懸垂文共に特徴がある。地文の大部分は、櫛描き条線であるが1単位分のみは地文が燃糸文であり、直下懸垂文は貼付であるが、蛇行懸垂文は沈線で描かれる。8



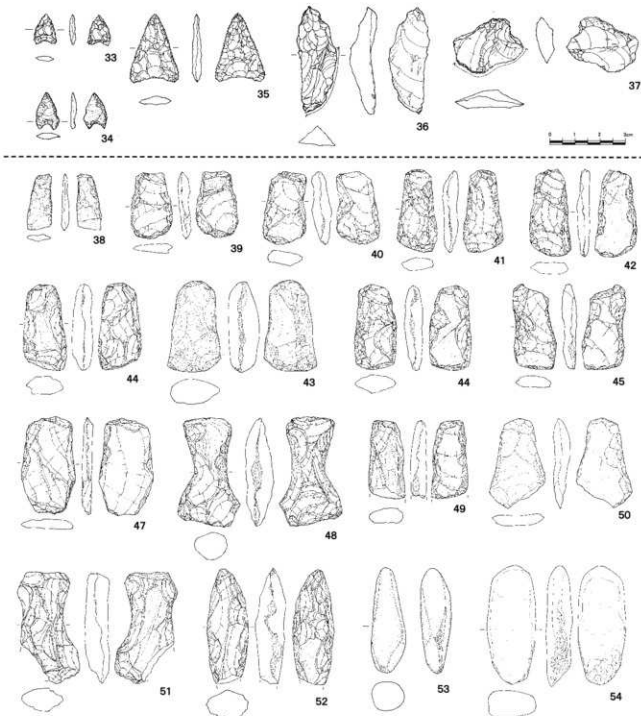
第144図 神明後遺跡18号住居跡出土土器③(1/4)



～10は加曾利EⅠ新式新相で、11～13は加曾利EⅠ新式新相又は加曾利EⅡ式古相。14～16は11～13と併行する曾利系の土器である。

17～24は浅鉢である。17は大形浅鉢の文様帯部分の30%が遺存する。沈線列を刻目付隆帯で区画し楕円形区画間の上部は渦巻状に突出する。18は口縁部文様帯をもつ大浅鉢で、地文縄文の上に隆帯を貼付けて区画文とベン先状隆帯をもつ。文様帯と口縁部の境には千鳥状交互刻突文を、体部との境の区画隆帯上には刻目

を入れる。施文・整形ともに入念で、焼成良好で赤褐色を呈する。19は浅鉢の口縁部文様帯と体部のごく1部を残すが文様帯は長方形区画をつくり、区画内端部を渦巻かせ、他は縦位の沈線列であり、整形良好で赤褐色を呈する。20は平たい口縁上面に、沈線間に刻目を入れ、器の内外上面には赤色塗彩が残る。21は復原口径39cmの浅鉢で無文浅鉢である。整形・磨きが著しいという特徴をもち、外面上部に広く赤色塗彩が認められる。22は無文で整形良好な浅鉢で、口縁から底近



第145図 神明後遺跡18号住居跡出土土器 (1/4、2/3)



くまでの60%を遺存し、幅狭の口縁部の内外に赤色塗彩の痕跡が残る。復原口径は36cmである。23は口縁が外反する浅鉢で、口縁から体部下半までを遺存し復原口径42cm。特徴的なのは整形が極めて良好で横位のヘラ磨きが著しいことと、体部が6~7mmと薄いことである。内面最上部に赤色塗彩残るほか、外面の口縁頂から体部にかけて不定形の赤色塗彩が、ほぼ全面的に垂下する。24は口縁が外反し、体上部が最大径となる無文の浅鉢で口径32cm。ラフにつくられ、胎土に砂粒が多い。

25は台付深鉢型土器の台の基部で台部が花粉科植物で調整されている。

26は有孔鈔付土器の鈔部の細片で、孔は鈔基部を上下に貫通し、鈔表面には赤色塗彩がある。

27~32は土器片を利用した土製円板で側面調整が著しく、利用土器片に差異があるがすべて加曾利E式。

石器は石鎌3、スクレーパー2、打製石斧21、敲石12、剥片2の計40点が出土し、うち22点を図化した。3,600片が出土したが、98%は加曾利E I式である。

(5) 19号住居跡

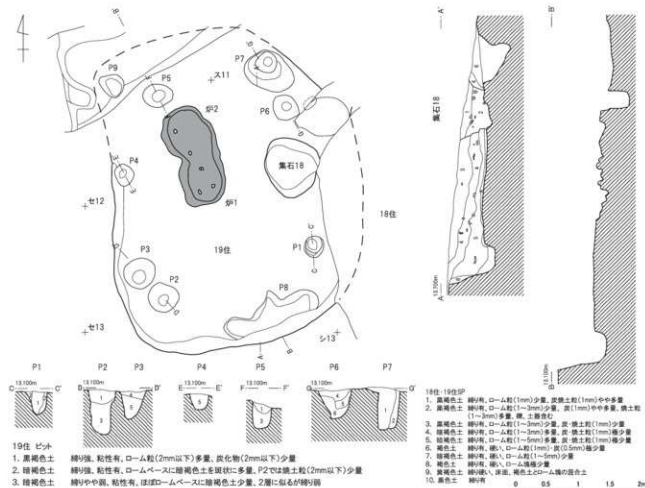
【位置】調査区の中央近いスー12、平坦地から斜面地にかけて立地する。東側は18号住居跡と重複し、18号住居跡より新しい。また、住居覆土中に集石18が構築され、北側は溝2により削平される。

【形状】平面形態は隅丸長方形を呈すると思われる。規模は主軸方位の北西-南東方向で6.05m、横幅5.70m。確認面から床面の深さは90cmである。

【炉】炉は重複した状態で2基検出した。全体規模は160×82cmある。

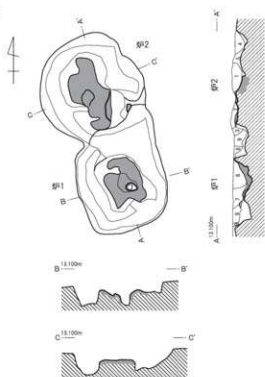
炉1は住居中央に位置する。上端幅72cm・深さ10cmの隅丸方形を呈し、中央部分の35×30cmのローム面が被熱で赤化する。赤化部分の周囲10~20cmが溝状に10cmほど深くなっている。

炉2は住居中央やや北寄り、炉1の北側に重複する。上端幅82cm・深さ10cmの円形を呈し、中央部分の60×35cmのローム面が被熱で赤化する。赤化部分の周囲10~20cmが溝状に10cmほど深くなっている。炉1・2ともおそらく本来は、赤化していない帯状の溝に石を



第146図 神明後遺跡19号住居跡 (1/60)

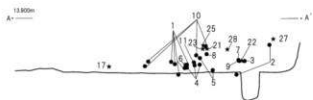
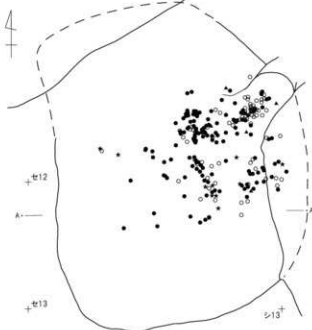
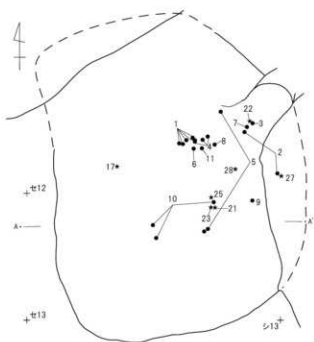
炉



炉 1-2

1. 暗褐色土 粘り強、粘性や中強、(15mm)少(15mm)少焼土塊(15mm)少量、
焼土(2mm以下)やや多量、全体に黄色味が帯る
2. 暗褐色土 粘り有、粘性有、焼土塊(最大40mm大)少量、焼土粒(5mm以下)やや多量
3. 暗褐色土 粘り有、粘性や中強、(10mm大)少焼土塊(10mm大)少量、焼土(2mm以下)
と比類した黄褐色ローム粒多量
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、焼土(2mm以下)少量、ローム粒(3mm以下)多量
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、比類して硬化したローム塊主体、すきまを暗褐色土がうめる
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、焼土塊(5~10mm)多量
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、焼土粒(3mm以下)多量、ローム粒(3mm以下)少量、しみ状
に黒色土少量
8. 暗褐色土 粘り強、粘性有、焼土粒(1~5mm)少量、ローム粒(2~3mm)多量、しみ状に
黒色土少量
9. 暗褐色土 粘り強、粘性有、比類して硬化したローム塊主体、すきまを暗褐色土がうめる

0 0.5 1m



0 0.5 1 1.5 2m

第147図 神明後遺跡19号住居跡炉・埋甕(1/30)遺物出土状況図(1/60)

埋設した石囲い炉であったと思われる。

【ビット】床面上に8基検出した。P1・2・5・7・9が新しいビットでP3・4・6はローム混じりの土で埋められており古い。P1・2・7・9の4本が主柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P2間とP9-P7間が2.5m、P7-P1間は3.0m、P2-P9間が3.5mである。

第72表 神明後遺跡19号住居跡ビット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	34×32	20×14	49	土器出土
P2	円形	48×48	18×14	58	土器出土
P3	円形	51×46	22×20	50	土器出土
P4	円形	36×30	15×10	27	土器出土
P5	楕円形	48×37	21×18	33	
P6	円形	46×40	16×14	59	土器出土
P7	楕円形	80×60	15×14	65	土製円盤出土
P8	不整形	155×32	140×20	19	
P9	楕円形	40×35	28×20	29	

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、斜面の高い部分で

50cmある。床面は平坦である。

【時期】出土土器から加曾利EⅡ～EⅢ式。

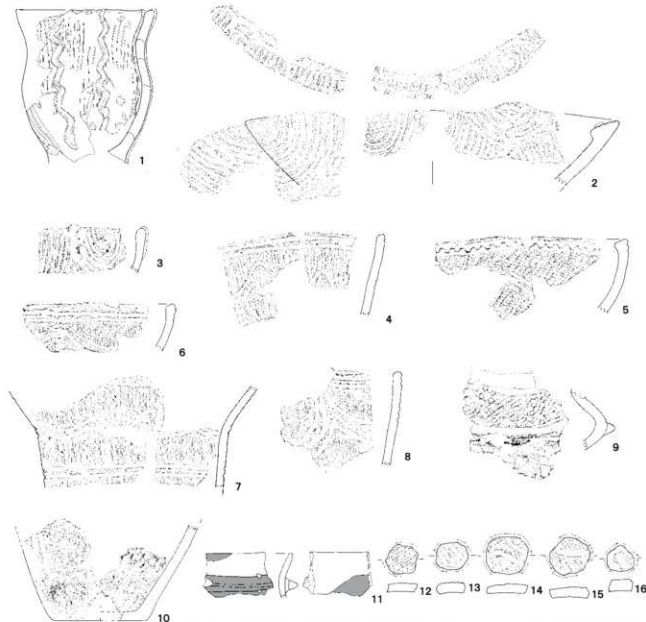
【出土遺物】(第148・149図)

1は口縁から胴下部までの60%を残す小深鉢で、口縁と体部はひとつの文様帯である。櫛状工具による条線を地文とし、貼付隆帯で蛇行懸垂文と直下懸垂文をラフに入れる。2次被熱によるハジケ現象が著しい。

2は口縁から胴上部までの40%を残す深鉢で、体部は管状工具による縦位の沈線列で、口縁はゆるい波状突出部を中心に重弧文をつくり、その中心部に細い貼付隆帯による蛇行文を垂下させる。覆土上層出土。

3は縦位の沈線による重弧文をもち、その境には口唇上から細い隆帯をリアルな蛇状に貼付ける。

4は地文燃糸文の中深鉢で、口縁直下に沈線を2本



第148図 神明後遺跡19号住居跡出土土器 (1/4)